

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	現代文B	3	2年総合探究	本岡・森野
教科書	『高等学校 現代文B』(第一学習社)		副教材	『常用漢字ダブルクリア』尚文出版 『クリアカラー国語便覧』数研出版

1. 学習の目標

近代以降の優れた文章に触れ、読解・鑑賞・読書の方法を習得し、ものの見方や考え方を深める。語彙・文法など基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、それらの活用を通じて判断力・思考力・表現力を高める。課題の発見・解決を目指す学習活動の中で、主体的に学習に取り組む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習では本文を通読し、気になる語句を調べておく。また主張・主題、論の組み立てを確認しておく。授業では疑問点を明らかにし、細部の読み取りに注意を払い、グループワークに積極的に参加する。復習は授業で作成したノートに基づいて本文を精読する。詩や小説では表現を読み味わったり、主題について考えを深めたりする。評論では別の視点を取り入れてみたり、主張に対する反論を考えてみたりする。考査に向けて10回は本文を読んで、本文が頭の中にある状態で考査に臨めるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに規準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業態度・グループワークへの参加・課題の提出・持ち物 ・課題の提出状況とその取り組みの質。 ・グループワークでの自己評価や相互評価票とワークの到達度。 ・辞書等の準備状況や予習・復習の状況。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり話し合ったりして自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	発表やグループワークでの発言・質疑に対する応答 ・場や相手に応じた話し方・聞き方ができる。 ・話の順序を整理することや具体化することでわかりやすく伝えられる。 ・質疑に対して的確に応答することができる。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	課題の記述・感想・ノート ・授業内容を整理してわかりやすくノートにまとめる。 ・よりよく伝えることを意識して文章を工夫することができる。 ・書くことを通じて考えの深まりが認められる。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	論理的文章の読解・文学的文章の読解・必要に応じた情報探し ・用語を正しく理解し、論理展開を正確につかむことができる。 ・主題の読み取りや工夫された文章表現の読み取りができる。 ・必要に応じて情報を探し出したり取捨選択したりすることができる。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	言葉・文章構造・テーマの理解 ・文章にあわせて適切な言葉を選ぶことができる。 ・文章構造のパターンについて理解している。 ・現代文で扱われる主なテーマについて理解している。

4. 担当者からのメッセージ

現代文は「読めばわかる」と思っている人が多いようですが、推敲を重ねて練り上げられた文章や独自の視点からテーマに切り込んでいく文章は簡単に読み解けるものではありません。授業を中心に予習・復習を心がけ、本文を繰り返し読んでください。最後に、読書の幅が本文理解を大きく助けてくれることを付け加えておきます。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	評論1	・文化の違いや時代の違いによる美に対する意識の変化を読み取り、多文化理解のあり方について、自分の意見を持つ。【関心・意欲・態度】	・本文に即して筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	行動の観察		教科書 「世界をつくり替えるために」 「ミロのヴィーナス」 国際
		・基本的な評論文の読解の仕方を理解する。【読む能力】	・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張を読み取る。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
	小説1	・小説を読み味わうことで、自己の心情を豊かにしようとする。【関心・意欲・態度】	・主人公の心情を理解し、感想文をまとめる。	記述の分析		教科書 「山月記」 表現
		・主人公の生き方について自分の思いを的確に述べられる。【書く能力】				
		・虚構の仕組みについて考え、細部の表現まで深く理解し、味わうことのできる力を養う。	・小説の舞台・時間設定が主人公の心情告白にどのような効果をもたらしているか分析する。	記述の分析 行動の観察		
		・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。【読む能力】				中間考査
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。	・難解で漢文的な語句や言い回しについて、漢和辞典などで調べる。	記述の点検		
		・作品の文学史上の位置を知る。【知識・理解】	・国語便覧を用いて作者について調べる。			
	評論2	・本文の構造を理解し、客観的事実について考察することができる。【関心・意欲・態度】	・文化の違いについて考えたこと、感じたことを話し合う。	行動の観察		教科書 「相手依存の自己規定」 「科学的『発見』とは」 表現
		・文章を読んで自分が感じたことについて話し合い、考えを深めることができる。【話す・聞く能力】				
		・論旨の展開方法に習熟し、根拠を明らかにしながら筆者の論点を的確にとらえる。【読む能力】	・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張とその根拠を読み取る。	記述の分析		
2	詩	・朗読によって独特のリズムを味わい、詩に親しむ。【関心・意欲・態度】	・朗読し、独特のリズムを味わう。	行動の観察 記述の分析		教科書 「見えない季節」 「未確認飛行物体」 「竹」 「永訣の朝」
		・それぞれの詩の主題をとらえ、読み比べて読みを深め、鑑賞力を養う。【読む能力】	・詩を読み比べ、それぞれの作者が「自然」「生命」といった対象にどのような気持ちを抱いているのかを考える。	行動の観察 記述の分析		
		・詩の表現の特色について理解を深め、表記や修辞などの表現技法に関する知識を身につける。【知識・理解】	・それぞれの詩の表現上の特徴を発表し、その効果を考える。	発表の分析		
	詩の創作	・詩作を通じて、言葉の表現の可能性を考える。【関心・意欲・態度】	・自分が最も伝えたいことは何かを考え、テーマを絞る。	行動の観察		補助教材 「書く(詩)」 表現
		・優れた詩の読解を通して得た成果を、自分の詩作に生かし、効果的な表現を工夫する。【書く能力】	・音韻やリズムなど、音読した場合の印象に関わる点と語彙や表記など、視覚的な印象に関わる点との両方から考え、効果的な表現を工夫して詩作をする。	記述の分析		
		・日本語の音韻の特色や語句の適切な使い方理解する。【知識・理解】	・できあがった詩を交換して、生徒同士で相互評価し、推敲して完成させる。	記述の分析		
	小説2	・文学的文章を読んで考えたことを、根拠を示して伝える。また、相手の述べていることを的確に聞き取る。【話す・聞く能力】	・作品中の複数の「謎」について生徒同士で話し合い、意見を深める。	行動の観察 記述の分析		教科書 「こころ」 「文学的文章を読んで話し合う」 表現
		・さまざまな考え方をすることで、作品に対する理解を深める。【関心・意欲・態度】				
		・小説における場面転換や描写を正確に理解し、人物の性格や心理を把握する。【読む能力】	・場面転換やせりふに着目して、主人公の心理の変化や登場人物の性格を把握し、ノートにまとめる。	記述の分析		
						期末考査

		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。 ・作品の文学史上の位置を知る。【知識・理解】	・本文に登場する難解な語句について調べ、ワークシートにまとめる。 ・国語便覧を使用して、作者について調べる。	記述の分析		
						中間考査
	評論3	・社会について広く関心を持ち、自分たちにとってそれがどのような意味をもつのかを考える。【関心・意欲・態度】 ・本文に対する自分の考えを具体的に述べることができる。【書く能力】 ・キーワードに着目して評論文を読み、筆者の意見を性格に把握できる。【読む能力】 ・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・現代社会におけるメディアのあり方について自分の意見を持つ。 ・本文を読んで考えたことをワークシートに書き、生徒同士で交流する。 ・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張を読み取る。 ・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の分析 記述の分析 記述の点検		教科書 「消費されるスポーツ」 国際
						期末考査
3	評論4	・自己と社会とのかかわりを見つめ、物事を深く考える態度や習慣を養う。【関心・意欲・態度】 ・文章の構成・展開を理解し、論旨を的確にとらえる。【読む能力】 ・漢字や語句について、文脈に応じた適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・社会と人間のあり方について考え、自分の価値観を分析して書く。 ・筆者が述べていることを、叙述をたどって整理し、ノートに書く。 ・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用句の意味を調べる。	記述の分析 記述の点検 記述の点検		教科書 「『である』ことと『する』こと」 「人間の運命と科学」 国際
	評論5	・提示された問題について考え、自分の見解や意見を持ってそれを表明する。【関心・意欲・態度】【話す・聞く】 ・絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。【読む能力】 ・漢字や語句について、文脈に応じた適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・筆者の見解を自分の視点から捉え直し、生徒同士で考えを共有する。 ・絵画や地図のイメージについて積極的に考え、それについての筆者の主張を理解する。 ・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用句の意味を調べる。	行動の観察 記述の点検 記述の点検		教科書 「日本人の美意識」 「地図の想像力」 「図像を読み解くために」
						学年末考査

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	現代文B	3	2年英語人文・環境理数	河村
教科書	『高等学校 現代文B』(第一学習社)	副教材	『常用漢字ダブルクリア』尚文出版 『クリアカラー国語便覧』数研出版	

1. 学習の目標

近代以降の優れた文章に触れ、読解・鑑賞・読書の方法を習得し、ものの見方や考え方を深める。語彙・文法など基礎的・基本的な知識・技能を習得するとともに、それらの活用を通じて判断力・思考力・表現力を高める。課題の発見・解決を目指す学習活動の中で、主体的に学習に取り組む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習では本文を通読し、気になる語句を調べておく。また主張・主題、論の組み立てを確認しておく。授業では疑問点を明らかにし、細部の読み取りに注意を払い、グループワークに積極的に参加する。復習は授業で作成したノートに基づいて本文を精読する。詩や小説では表現を読み味わったり、主題について考えを深めたりする。評論では別の視点を取り入れてみたり、主張に対する反論を考えてみたりする。考査に向けて10回は本文を読んで、本文が頭の中にある状態で考査に臨めるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに規準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	授業態度・グループワークへの参加・課題の提出・持ち物 ・課題の提出状況とその取り組みの質。 ・グループワークでの自己評価や相互評価票とワークの到達度。 ・辞書等の準備状況や予習・復習の状況。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり話し合ったりして自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	発表やグループワークでの発言・質疑に対する応答 ・場や相手に応じた話し方・聞き方ができる。 ・話の順序を整理することや具体化することでわかりやすく伝えられる。 ・質疑に対して的確に応答することができる。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	課題の記述・感想・ノート ・授業内容を整理してわかりやすくノートにまとめる。 ・よりよく伝えることを意識して文章を工夫することができる。 ・書くことを通じて考えの深まりが認められる。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価します。	論理的文章の読解・文学的文章の読解・必要に応じた情報探し ・用語を正しく理解し、論理展開を正確につかむことができる。 ・主題の読み取りや工夫された文章表現の読み取りができる。 ・必要に応じて情報を探し出したり取捨選択したりすることができる。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	言葉・文章構造・テーマの理解 ・文章にあわせて適切な言葉を選ぶことができる。 ・文章構造のパターンについて理解している。 ・現代文で扱われる主なテーマについて理解している。

4. 担当者からのメッセージ

現代文は「読めばわかる」と思っている人が多いようですが、推敲を重ねて練り上げられた文章や独自の視点からテーマに切り込んでいく文章は簡単に読み解けるものではありません。授業を中心に予習・復習を心がけ、本文を繰り返し読んでください。最後に、読書の幅が本文理解を大きく助けてくれることを付け加えておきます。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	評論1	・文化の違いや時代の違いによる美に対する意識の変化を読み取り、多文化理解のあり方について、自分の意見を持つ。【関心・意欲・態度】	・本文に即して筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	行動の観察		教科書 「世界をつくり替えるために」 「ミロのヴィーナス」 国際
		・基本的な評論文の読解の仕方を理解する。【読む能力】	・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張を読み取る。	記述の分析		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
	小説1	・小説を読み味わうことで、自己の心情を豊かにしようとする。【関心・意欲・態度】	・主人公の心情を理解し、感想文をまとめる。	記述の分析		教科書 「山月記」 表現
		・主人公の生き方について自分の思いを的確に述べられる。【書く能力】	・小説の舞台・時間設定が主人公の心情告白にどのような効果をもたらしているか分析する。	記述の分析 行動の観察		
		・虚構の仕組みについて考え、細部の表現まで深く理解し、味わうことのできる力を養う。	・難解で漢文的な語句や言い回しについて、漢和辞典などで調べる。	記述の点検		
		・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。【読む能力】	・国語便覧を用いて作者について調べる。			中間考査
	評論2	・本文の構造を理解し、客観的事実について考察することができる。【関心・意欲・態度】	・文化の違いについて考えたこと、感じたことを話し合う。	行動の観察		教科書 「相手依存の自己規定」 「科学的『発見』とは」 表現
		・文章を読んで自分が感じたことについて話し合い、考えを深めることができる。【話す・聞く能力】	・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張とその根拠を読み取る。	記述の分析		
		・論旨の展開方法に習熟し、根拠を明らかにしながら筆者の論点を的確にとらえる。【読む能力】	・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の点検		
		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】				期末考査
2	詩	・朗読によって独特のリズムを味わい、詩に親しむ。【関心・意欲・態度】	・朗読し、独特のリズムを味わう。	行動の観察 記述の分析		教科書 「見えない季節」 「未確認飛行物体」 「竹」 「永訣の朝」
		・それぞれの詩の主題をとらえ、読み比べて読みを深め、鑑賞力を養う。【読む能力】	・詩を読み比べ、それぞれの作者が「自然」「生命」といった対象にどのような気持ちを抱いているのかを考える。	行動の観察 記述の分析		
		・詩の表現の特色について理解を深め、表記や修辞などの表現技法に関する知識を身につける。【知識・理解】	・「私の一編」を選び、好きな理由や気づいたことなどを文章にまとめる。	発表の分析		
	詩の創作	・詩作を通じて、言葉の表現の可能性を考える。【関心・意欲・態度】	・自分が最も伝えたいことは何かを考え、テーマを絞る。	行動の観察		補助教材 「書く(詩)」 表現
		・優れた詩の読解を通して得た成果を、自分の詩作に生かし、効果的な表現を工夫する。【書く能力】	・音韻やリズムなど、音読した場合の印象に関わる点と語彙や表記など、視覚的な印象に関わる点との両方から考え、効果的な表現を工夫して詩作をする。	記述の分析		
		・日本語の音韻の特色や語句の適切な使い方理解する。【知識・理解】	・できあがった詩を交換して、生徒同士で相互評価し、推敲して完成させる。	記述の分析		
	小説2	・文学的文章を読んで考えたことを、根拠を示して伝える。また、相手の述べていることを的確に聞き取る。【話す・聞く能力】	・作品中の複数の「謎」について生徒同士で話し合い、意見を深める。	行動の観察 記述の分析		教科書 「こころ」 「文学的文章を読んで話し合う」 表現
		・さまざまな考え方をすることで、作品に対する理解を深める。【関心・意欲・態度】	・場面転換やせりふに着目して、主人公の心理の変化や登場人物の性格を把握し、ノートにまとめる。	記述の分析		

		・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。 ・作品の文学史上の位置を知る。【知識・理解】	・本文に登場する難解な語句について調べ、ワークシートにまとめる。 ・国語便覧を使用して、作者について調べる。	記述の分析		
						中間考査
	評論3	・社会について広く関心を持ち、自分たちにとってそれがどのような意味をもつのかを考える。【関心・意欲・態度】 ・本文に対する自分の考えを具体的に述べることができる。【書く能力】 ・キーワードに着目して評論文を読み、筆者の意見を性格に把握できる。【読む能力】 ・文脈に応じた語句の意味や用法などを理解する。【知識・理解】	・現代社会におけるメディアのあり方について自分の意見を持つ。 ・本文を読んで考えたことをワークシートに書き、生徒同士で交流する。 ・段落分け、キーワードを押さえたまとめ・要約等を通して構成を理解し、筆者の主張を読み取る。 ・難解語句の意味を辞書で確認し、ワークシートに書き入れる。	記述の分析 記述の分析 記述の点検		教科書 「消費されるスポーツ」 国際
						期末考査
3	評論4	・自己と社会とのかかわりを見つめ、物事を深く考える態度や習慣を養う。【関心・意欲・態度】 ・文章の構成・展開を理解し、論旨を的確にとらえる。【読む能力】 ・漢字や語句について、文脈に応じた適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・社会と人間のあり方について考え、自分の価値観を分析して書く。 ・筆者が述べていることを、叙述をたどって整理し、ノートに書く。 ・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用句の意味を調べる。	記述の分析 記述の点検 記述の点検		教科書 「『である』ことと『する』こと」 「人間の運命と科学」 国際
	評論5	・提示された問題について考え、自分の見解や意見を持ってそれを表明する。【関心・意欲・態度】【話す・聞く】 ・絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。【読む能力】 ・漢字や語句について、文脈に応じた適切な使い方を理解する。【知識・理解】	・筆者の見解を自分の視点から捉え直し、生徒同士で考えを共有する。 ・絵画や地図のイメージについて積極的に考え、それについての筆者の主張を理解する。 ・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用句の意味を調べる。	行動の観察 記述の点検 記述の点検		教科書 「日本人の美意識」 「地図の想像力」 「図像を読み解くために」
						学年末考査

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典B	3	2年総合探究コース	河村・本岡・森野
教科書	精選 古典B 改訂版(大修館)	副教材	『クリアカラー 国語便覧』(数研出版) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『四訂版 体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『新版 読み・解き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(いいずな書店)	

1. 学習の目標

1年次に身につけた基礎的な学力の定着・伸長をめざす。古語の意味や読み・文法知識・ポイントを押さえながら現代語訳ができるように、主体的に取り組む態度を育てる。伝統的な文化や価値観を学ぶことで、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

1年次に学習した基本的な知識や読解力を定着・伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。古典単語の小テストを積み重ねることで、語句の知識が身につく模試対策にもなる。予習・復習を確実にすることでグループワークに積極的に参加でき、自分以外の考えに触れることで深く作品を理解することができる。古文・漢文ともに、登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を確認してから考査に臨めるようにする。単語や文法の小テストにもしっかり取り組むこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をする。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価する。	授業の出席状況、授業に臨む態度(グループワーク含む)、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・古語や文章に興味を持ち、進んで読書したり、予習・復習ができているか。 ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか。 ・グループワークで他者理解を深め、相互評価ができているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価する。	授業での発表やグループワーク、他者の質問・意見に対する応答 ・場面や相手に応じて、話し方や聞き方ができているか。 ・自分の意見を整理し、相手を意識してわかりやすく伝えることができているか。 ・古典の優れた文章に接することで、自分の表現に役立てているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価する。	ノート・課題・感想・考査 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか。 ・目的、相手に応じた論理的な構成で効果的な記述や表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立てているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んで、自分の考えを深め、発展させているかを評価する。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの基本的な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか。 ・正確な理解のために傍線や記号を記入するなどしているか。 ・正確な読解に基づき要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価する。	古語・古典文法・古典世界の理解 ・古語・文法を正確に理解しているか。 ・文語・訓読、古典世界の背景を理解しているか。 ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか。

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や、言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてほしいと思います。また同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。【関心・意欲・態度】	・登場人物の行動に注目しながら場面展開を理解し、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。	記述の分析		『宇治拾遺物語』 『十訓抄』 表現
		・文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取る。【読む能力】	・繰り返し音読して古人の読みに慣れ親しむ。	記述の点検		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【話す・聞く能力】	・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を理解する。	行動の観察		
	随筆（一）	・筆者の人生観や人間観を読み取る。【読む能力】	・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		『徒然草』 『方丈記』
		・特徴的な表現箇所とその効果に気づき、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・対句的表現や比喩などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	行動の観察		
		・作者の思想の基調を理解し発表を前提に文章化する。【書く能力】	・当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。	記述の分析		
	故事成語	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割にを理解し、発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	発表の分析		故事成語 国際 表現
		・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。【知識・理解】	・故事成語を生んだ文を原文で読む力を培う。	記述の点検		
						中間考査
	物語（一）	・物語の展開を理解し、和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。【読む能力】【意欲・関心・態度】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	行動の観察		『伊勢物語』
			・複数の物語を読み、比較することで、物語の多様性を知る。	記述の分析		
		・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・和歌の技法について理解し、作品に関する文学史的理解を深める。	発表の点検		
	漢詩	・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、深く味わって詩的世界を理解する。【読む能力】	・ワークシートを活用し、筆者が述べていることを、叙述をたどって整理する。	行動の観察・記述の点検		
		・押韻や対句に注意して、近体詩の形式や表現について理解する。【知識・理解】	・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用句の意味を調べる。	記述の点検		
	思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【読む能力】	・古代中国の代表的な思想の対抗・継承の関係を把握し、その意義を理解する。	記述の分析		儒家 国際
		・表現の深みや巧みな比喩を理解し、内容を的確に読み取る。【読む能力】	・簡潔な表現や巧みな比喩について注目しながら、内容を的確に読み取る。	記述の点検		
		・思想の違いを理解し、日本に及ぼした影響について考え、発表する。【話す・聞く能力】	・世界史の知識も合わせて、人類の英知としての思想の様々について基礎的な知識と現代的意義を学ぶ。	行動の観察		
						期末考査
2	随筆（二）	・内容を踏まえて筆者の考え方や、当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。【関心・意欲・態度】	・作品に表れた人間・社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『枕草子』
		・敬語表現を正しく理解し、それを用いて登場人物の関係を正しく指摘できる。【読む能力】	・敬語の意味と用法について整理し、理解することで古典作品をより的確に読む力を養う。	記述の分析		

物語 (二)	・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。【読む能力】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	記述の分析		『大鏡』
	・登場人物の才能、行動、心情を作者がどのようにとらえているか読み取り、話し合う。【読む能力】 【話す・聞く能力】	・作品に表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察・発表の分析		
	・敬語表現を文法的に正しく理解し識別できる。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の分析		
史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「鴻門の会」(前半)
	・句法についてペアやグループワークで確認できる。【関心・意欲・態度】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
					国際 表現 中間考查
史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「鴻門の会」(後半)
	・句法の意味用法をしっかりと把握する。【知識・理解】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
物語 (三)	・登場人物の特徴と心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。【読む能力】	・文章に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の分析		『源氏物語』
	・その時代の人々の価値観・美意識にふれ、人間の生き方についての考えを深める。【意欲・関心・態度】	・作品の内容を優れた文章表現や作品全体の構成・展開に留意して的確にとらえる。	記述の分析		
	・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・敬語の意味と用法について整理し理解する。	記述の点検		
					表現 期末考查
3 史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを文章にまとめる。【書く能力】 ・句法の意味用法について他の文章の中でも理解できる。【知識・理解】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「項王の最期」
		・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
日記	・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換できる。【話す・聞く能力】	・作品の内容を構成や展開、時代背景・古典常識などに即して的確にとらえる。	記述の分析		『土佐日記』 『更級日記』
	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【意欲・関心・態度】	・作品に表れた人間、社会、自然などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		
	・形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の点検		
					表現 学年末考查

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典B	2	2年環境理数コース	河村・本岡
教科書	精選 古典B 改訂版(大修館)	副教材	『クリアカラー 国語便覧』(数研出版) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『四訂版 体型古典文法準拠ノート』(数研出版) 『新版 読み・解き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(い いずな書店) 『基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート 五訂版 基本編』 (桐原書店)	

1. 学習の目標

1年次に身につけた基礎的な学力の定着・伸長をめざす。古語の意味や読み・文法知識・ポイントを押さえながら現代語訳ができるように、主体的に取り組む態度を育てる。伝統的な文化や価値観を学ぶことで、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

1年次に学習した基本的な知識や読解力を定着・伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。古典単語の小テストを積み重ねることで、語句の知識が身につく模試対策にもなる。予習・復習を確実にすることでグループワークに積極的に参加でき、自分以外の考えに触れることで深く作品を理解することができる。古文・漢文ともに、登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を確認してから考査に臨めるようにする。単語や文法の小テストにもしっかりと取り組むこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をする。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価する。	授業の出席状況、授業に臨む態度(グループワーク含む)、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・古語や文章に興味を持ち、進んで読書したり、予習・復習ができているか。 ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか。 ・グループワークで他者理解を深め、相互評価ができているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価する。	授業での発表やグループワーク、他者の質問・意見に対する応答 ・場面や相手に応じて、話し方や聞き方ができているか。 ・自分の意見を整理し、相手を意識してわかりやすく伝えることができているか。 ・古典の優れた文章に接することで、自分の表現に役立っているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価する。	ノート・課題・感想・考査 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか。 ・目的、相手に応じた論理的な構成で効果的な記述や表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立っているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価する。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの基本的な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか。 ・正確な理解のために傍線や記号を記入するなどしているか。 ・正確な読解に基づき要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価する。	古語・古典文法・古典世界の理解 ・古語・文法を正確に理解しているか。 ・文語・訓読、古典世界の背景を理解しているか。 ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか。

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や、言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてほしいと思います。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。【関心・意欲・態度】	・登場人物の行動に注目しながら場面展開を理解し、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。	記述の分析		『宇治拾遺物語』 『十訓抄』
		・文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取る。【読む能力】	・繰り返し音読して古人の読みに慣れ親しむ。	記述の点検		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【話す・聞く能力】	・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を理解する。	行動の観察		
	随筆（一）	・筆者の人生観や人間観を読み取る。【読む能力】	・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		『徒然草』 『方丈記』
		・特徴的な表現箇所とその効果に気づき、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・対句的表現や比喻などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	行動の観察		
		・作者の思想の基調を理解し発表を前提に文章化する。【書く能力】	・当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。	記述の分析		
	故事成語	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割に理解し、発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	発表の分析		故事成語
		・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。【知識・理解】	・故事成語を生んだ文を原文で読む力を培う。	記述の点検		
						中間考査
	物語（一）	・物語の展開を理解し、和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。【読む能力】【意欲・関心・態度】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	行動の観察		『伊勢物語』
			・複数の物語を読み、比較することで、物語の多様性を知る。	記述の分析		
		・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・和歌の技法について理解し、作品に関する文学史的理解を深める。	発表の点検		
2	思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【読む能力】	・古代中国の代表的な思想の対抗・継承の関係を把握し、その意義を理解する。	記述の分析		儒家
		・表現の深みや巧みな比喻を理解し、内容を的確に読み取る。【読む能力】	・簡潔な表現や巧みな比喻について注目しながら、内容を的確に読み取る。	記述の点検		
		・思想の違いを理解し、日本に及ぼした影響について考え、発表する。【話す・聞く能力】	・世界史の知識も合わせて、人類の英知としての思想の様々について基礎的な知識と現代的意義を学ぶ。	行動の観察		
						期末考査
	随筆（二）	・内容を踏まえて筆者の考え方や、当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。【関心・意欲・態度】	・作品に表れた人間・社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『枕草子』
		・敬語表現を正しく理解し、それを用いて登場人物の関係を正しく指摘できる。【読む能力】	・敬語の意味と用法について整理し、理解することで古典作品をよりの確に読む力を養う。	記述の分析		
	物語（二）	・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。【読む能力】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	記述の分析		『大鏡』
		・登場人物の才能、行動、心情を作者がどのようにとらえているか読み取り、話し合う。【読む能力】【話す・聞く能力】	・作品に表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察・ 発表の分析		

表現

表現

国際

国際

		・敬語表現を文法的に正しく理解し識別できる。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の分析		
史伝		・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「鴻門の会」(前半)
		・句法についてペアやグループワークで確認できる。【関心・意欲・態度】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		国際 表現
						中間考查
史伝		・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「鴻門の会」(後半)
		・句法の意味用法をしっかりと把握する。【知識・理解】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		国際
物語(三)		・登場人物の特徴と心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。【読む能力】	・文章に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の分析		『源氏物語』
		・その時代の人々の価値観・美意識にふれ、人間の生き方についての考えを深める。【意欲・関心・態度】	・作品の内容を優れた文章表現や作品全体の構成・展開に留意して的確にとらえる。	記述の分析		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・敬語の意味と用法について整理し理解する。	記述の点検		表現
						期末考查
3 史伝		・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを文章にまとめる。【書く能力】 ・句法の意味用法について他の文章の中でも理解できる。【知識・理解】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「項王の最期」
			・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		国際
日記		・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換できる。【話す・聞く能力】	・作品の内容を構成や展開、時代背景・古典常識などに即して的確にとらえる。	記述の分析		『土佐日記』 『更級日記』
		・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【意欲・関心・態度】	・作品に表れた人間、社会、自然などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		
		・形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の点検		表現
						学年末考查

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
国語	古典B	3	2年英語人文コース	河村
教科書	精選 古典B 改訂版(大修館)	副教材	『クリアカラー 国語便覧』(数研出版) 『九訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』(数研出版) 『四訂版 体系古典文法準拠ノート』(数研出版) 『新版 読み・解き・覚える 日本文学史必携』(第一学習社) 『三訂版 わかる・読める・解ける Key&Point 古文単語330』(い いずな書店) 『基礎から解釈へ 漢文必携チェックノート 五訂版 基本編』 (桐原書店)	

1. 学習の目標

1年次に身につけた基礎的な学力の定着・伸長をめざす。古語の意味や読み・文法知識・ポイントを押さえながら現代語訳ができるように、主体的に取り組む態度を育てる。伝統的な文化や価値観を学ぶことで、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

1年次に学習した基本的な知識や読解力を定着・伸長させるために、古語の意味と読み、文法知識を反復練習する。古典単語の小テストを積み重ねることで、語句の知識が身につく模試対策にもなる。予習・復習を確実にすることでグループワークに積極的に参加でき、自分以外の考えに触れることで深く作品を理解することができる。古文・漢文ともに、登場人物や場面を意識しながら本文を丁寧に読み、授業ノートで内容を確認してから考査に臨めるようにする。単語や文法の小テストにもしっかりと取り組むこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をする。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価する。	授業の出席状況、授業に臨む態度(グループワーク含む)、課題・レポート・ノートなどの提出状況 ・古語や文章に興味を持ち、進んで読書したり、予習・復習ができているか。 ・真摯に意欲的な態度で授業に臨んでいるか。 ・グループワークで他者理解を深め、相互評価ができているか。
②話す・聞く能力 目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価する。	授業での発表やグループワーク、他者の質問・意見に対する応答 ・場面や相手に応じて、話し方や聞き方ができているか。 ・自分の意見を整理し、相手を意識してわかりやすく伝えることができているか。 ・古典の優れた文章に接することで、自分の表現に役立っているか。
③書く能力 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価する。	ノート・課題・感想・考査 ・表記、語彙の使用など正確で適切な記述表現ができるか。 ・目的、相手に応じた論理的な構成で効果的な記述や表現ができているか。 ・優れた文章に接して自分の表現に役立っているか。
④読む能力 文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているかを評価する。	教科書、資料、考査問題、演習問題などの基本的な読解 ・進んで読書に心がけ幅広い分野の文章に接しているか。 ・正確な理解のために傍線や記号を記入するなどしているか。 ・正確な読解に基づき要約したり自分の意見を持ったりして発展させているか。
⑤知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価する。	古語・古典文法・古典世界の理解 ・古語・文法を正確に理解しているか。 ・文語・訓読、古典世界の背景を理解しているか。 ・言語の役割・特性と人との関わりを理解しているか。

4. 担当者からのメッセージ

百年、千年の時を経て人々に愛され続けてきたさまざまな先人の文章に触れることによって、私たちが持つ感受性や、言語感覚が、どのように培われてきたのかを感じてほしいと思います。また、同時に、それらの文章の背後にある歴史や現代との違い、また人間の普遍性について知ってもらえればと思います。

年間学習計画

学期	単元	単元の目標	学習活動	評価方法	自己評価	教材
1	説話	・説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。【関心・意欲・態度】	・登場人物の行動に注目しながら場面展開を理解し、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。	記述の分析		『宇治拾遺物語』 『十訓抄』 表現
		・文章を通して、登場人物の行動の意味を読み取る。【読む能力】	・繰り返し音読して古人の読みに慣れ親しむ。	記述の点検		
		・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【話す・聞く能力】	・古文に用いられている語句や助動詞などの意味用法及び文の構造を理解する。	行動の観察		
	随筆（一）	・筆者の人生観や人間観を読み取る。【読む能力】	・作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		『徒然草』 『方丈記』
		・特徴的な表現箇所とその効果に気づき、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・対句的表現や比喻などの修辞技巧を理解し、的確な描写とその表現効果について考える。	行動の観察		
		・作者の思想の基調を理解し発表を前提に文章化する。【書く能力】	・当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。	記述の分析		
	故事成語	・故事成語の成り立ちや展開、現代日本での役割にを理解し、発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・中国古典に由来する語句が現代生活に多く用いられていることを再認識し、日本文化と中国文化との関係について考える。	発表の分析		故事成語 国際 表現
		・1年次に学習した漢文訓読のルールを復習する。【知識・理解】	・故事成語を生んだ文を原文で読む力を培う。	記述の点検		
						中間考査
	物語（一）	・物語の展開を理解し、和歌に込められた登場人物の心情を読み取る。【読む能力】【意欲・関心・態度】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	行動の観察		『伊勢物語』
			・複数の物語を読み、比較することで、物語の多様性を知る。	記述の分析		
		・文章や和歌を通して、登場人物の行動と心情を読み取り発表する。【読む能力】【話す・聞く能力】	・和歌の技法について理解し、作品に関する文学史的理解を深める。	発表の点検		
	漢詩	・漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取り、深く味わって詩的世界を理解する。【読む能力】	・ワークシートを活用し、筆者が述べていることを、叙述をたどって整理する。	行動の観察・記述の点検		
		・押韻や対句に注意して、近体詩の形式や表現について理解する。【知識・理解】	・間違えやすい漢字は特に注意して、書き取りの練習を繰り返す。 ・語や慣用句の意味を調べる。	記述の点検		
	思想	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【読む能力】	・古代中国の代表的な思想の対抗・継承の関係を把握し、その意義を理解する。	記述の分析		儒家 国際
		・表現の深みや巧みな比喻を理解し、内容を的確に読み取る。【読む能力】	・簡潔な表現や巧みな比喻について注目しながら、内容を的確に読み取る。	記述の点検		
		・思想の違いを理解し、日本に及ぼした影響について考え、発表する。【話す・聞く能力】	・世界史の知識も合わせて、人類の英知としての思想の様々について基礎的な知識と現代的意義を学ぶ。	行動の観察		
						期末考査
2	随筆（二）	・内容を踏まえて筆者の考え方や、当時の人々の生き方、生活や文化、ものの見方や考え方などについて認識を深める。【関心・意欲・態度】	・作品に表れた人間・社会、自然などに対する思想や感情などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『枕草子』
		・敬語表現を正しく理解し、それを用いて登場人物の関係を正しく指摘できる。【読む能力】	・敬語の意味と用法について整理し、理解することで古典作品をより的確に読む力を養う。	記述の分析		

物語 (二)	・それぞれの場面、登場人物の人間関係を正確につかみ、微妙な心理の動きをたどる。【読む能力】	・作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	記述の分析		『大鏡』
	・登場人物の才能、行動、心情を作者がどのようにとらえているか読み取り、話し合う。【読む能力】 【話す・聞く能力】	・作品に表れた人間、社会、自然に対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察・発表の分析		
	・敬語表現を文法的に正しく理解し識別できる。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の分析		
史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「鴻門の会」(前半)
	・句法についてペアやグループワークで確認できる。【関心・意欲・態度】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
					国際 表現
中間考查					
史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを他者に伝える。【話す・聞く能力】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「鴻門の会」(後半)
	・句法の意味用法をしっかりと把握する。【知識・理解】	・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
					国際
物語 (三)	・登場人物の特徴と心情を、それぞれの場面に応じて読み取る。【読む能力】	・文章に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の分析		『源氏物語』
	・その時代の人々の価値観・美意識にふれ、人間の生き方についての考えを深める。【意欲・関心・態度】	・作品の内容を優れた文章表現や作品全体の構成・展開に留意して的確にとらえる。	記述の分析		
	・助動詞などの基本的な文法事項を、ペアやグループワークで確認できる。【意欲・関心・態度】	・敬語の意味と用法について整理し理解する。	記述の点検		
					表現
期末考查					
3 史伝	・話の展開を理解するとともに、登場人物の心情・人生観を読み取る。【読む能力】 ・人間の生き方について考察したことを文章にまとめる。【書く能力】 ・句法の意味用法について他の文章の中でも理解できる。【知識・理解】	・作品に表れた様々な人物の考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	行動の観察 記述の分析		『史記』 「項王の最期」
		・文章の表現上の特色を理解し優れた表現に親しむ。	記述の分析		
					国際
日記	・作者の立場を理解し、その心情を読み取り、意見として発表・交換できる。【話す・聞く能力】	・作品の内容を構成や展開、時代背景・古典常識などに即して的確にとらえる。	記述の分析		『土佐日記』 『更級日記』
	・作品に表れる作者の人生観を読み取り、自己の感じ方や考え方を豊かにする。【意欲・関心・態度】	・作品に表れた人間、社会、自然などを読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	記述の点検		
	・形のうえで紛らわしい語を文法的に識別する。【知識・理解】	・敬語をはじめ読解の前提となる文法知識を身につける。	記述の点検		
					表現
学年末考查					

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な学習の時間	北稜探求Ⅱ	1	2年生1～4組(総合探求コース)全員	河村・本岡・竹松
教科書		副教材	『志望理由書・自己PR文完成ノート』(第一学習社)	

1. 学習の目標

- ・生徒自身が学習活動を通して自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決できるようになる。
- ・生徒自身が社会や自己の進路への理解を深めることを知ることを通して、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の在り方・生き方を考えることができるようになる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施しない。
毎週1時間の授業に集中し、課題に取り組むことが求められる。グループ学習も多く、その際、積極的に発言することと相手の意見をしっかりと聞くことが大切である。欠席してしまうと課題ができない分、成績評価に大きく影響する。
授業以外では新聞を読んだりニュースを聞いたりして社会に対する関心を広げていくことと新書を読んだり情報を収集したりして知識を深めていくことが求められる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめりと共に規準に従って評価を行い、学年末に文章での評価を行います。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする意欲や態度を評価します。	意欲的に学習に取り組み、積極的に周囲の人とコミュニケーションを図ろうとしているか。提出物の状況や話し合いへの取り組み状況、出欠状況で評価します。
②思考・判断 目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	自分の考えを適切な言葉でまとめ、発言することができているか。スピーチやディベートの発表や、話し合いの様子などで評価します。 また、他者の意見を適切な態度で聞き、正確に理解できているか。相互評価シートや授業中の様子で評価します。
③技能(表現) 相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているかを評価します。	自分の考えを整理し、文章に反映することができているか。 新聞や副教材テキストなどに書いてあることを正確に理解し、発表やレポートに反映できているか。文章だけでなく、図表やグラフの読み取り等も含みます。 レポートや発表の内容で評価します。 小論文模試やレポートの内容で評価します。
④知識・理解 伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているかを評価します。	相手に応じて適切な言葉遣いをしたり、正確に漢字を用いたりすることができているか。提出物や発表で評価します。 また、時事問題についての正確な知識を身に付けられたかどうかも見ます。

4. 担当者からのメッセージ

2年次での「北稜探求」は、活動を通して「社会」と「自分」を見つめ、表現する力を養います。「教えてもらう」といった受け身の姿勢ではなく、自ら主体的に考え、発信する姿勢を身につけましょう。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動(観点)	自己評価
1	オリエンテーション			
	読書課題①	・読書を通して社会に関する関心を深め、自分の考えを表現できる。 ・知らない言葉を調べ語彙力を豊かにする。 ・内容を的確に要約できる	課題提出①③④ 表現	
	社会を知る (ポスターセッション)	・社会で取り上げられている諸問題について調べ学習を行いその成果を適切な表現方法・媒体で発表できる。 ・まとめたものを自分の言葉で分かりやすく伝えることができる。	プレゼン発表② 原稿提出③ 表現	
	読書活動「ブックレビュー」	・自分の紹介したい本に関して適切に紹介文を書くことができる。	レビュー提出③ 表現	
	NIE活動	・記事に触れることで社会への関心を深める。 ・コラムの書き写しをすることで語彙力を豊かにする	課題提出①④ 表現	
2	読書課題②	・読書を通して社会に関する関心を深め、自分の考えを表現できる。 ・知らない言葉を調べ語彙力を豊かにする。 ・内容を的確に要約できる	課題提出①③④ 表現	
	志望理由書	・自分の将来設計への意欲を高める。 ・志望先へのマッチングを意識した志望理由書を完成できる。 ・志望校や志望業種などへの理解を深める。 ・適切な語句を用いて志望理由書を作成できる。	小論文模試③④ 冊子への取り組み①② 表現	
	自己PR文	・自分の将来設計への意欲を高める。 ・志望先へのマッチングを意識した自己PRを完成できる。 ・自己分析を行い、自分への理解を深める。 - 志望校や志望業種などへの理解を深める。	冊子への取り組み①②③④ 表現	
	NIE活動	・記事に触れることで社会への関心を深める。 ・コラムの書き写しをすることで語彙力を豊かにする	課題提出①④	
	志望理由書事後学習	・添削された志望理由書を元に、よりよい志望書を完成させるためのフィードバックができる。	課題提出①② 表現	
	面接練習	・作成した志望理由書、自己PRを元に自分の考えを適切に面接官に伝えることができる。	面接練習①② 表現	
	NIE活動	・記事に触れることで社会への関心を深める。 ・コラムの書き写しをすることで語彙力を豊かにする	課題提出①④ 表現	

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	世界史B	4	2年総合探求コース 2年英語人文コース 必修	合田・田中宗
教科書	新詳世界史B（帝国書院）	副教材	明解世界史図説エスカリエ（帝国書院）	

1. 学習の目標

具体的な歴史事象を様々な観点から論理的に学ぶことにより、歴史的洞察力・認識力を培います。2年生では、近現代史を中心に学習します。世界が一体化する過程で欧米列強が取った行動と、アジア・アフリカなど、欧米列強以外の地域が置かれた状況を学びます。そして、20世紀に起こった2つの大戦の経過と人類的課題を、戦後世界の歴史の動向もおさえながら、学習します。現代の世界に直接つながる諸問題を歴史的視野に立って考察していきます。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

予習より復習を中心に行ってください。暗記することはもちろん大切です。授業中に基本事項を暗記してください。一方で、1つ1つの出来事について、なぜそのような出来事が起こったのか、その結果どうなったのか、ということについても理解するようにしてください。全体を関連づけて考え、流れを理解することも重要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考査までを学習のひとまとめり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度（私語、居眠り、内職をしない） ノートや課題プリントなどの提出状況
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容など
③技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現（史料の講読など） 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、提出課題の内容など

4. 担当者からのメッセージ

「歴史なんて、覚えなアカンことばかりで、いやや」という声をよく耳にします。確かに、基本的な事項は暗記しなければなりません。本来歴史を学ぶということは、過去の人々の生き方、国々の興亡について学び、考えるということです。歴史を学ぶことで、自分自身を省み、自分の、日本の、世界の過去・現在・未来について、多角的な視野で考えられる人になってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動
1	2部 海洋による世界の一体化 2章 大規模な分業体制の成立 1 大航海時代～世界の一体化の始まり 2 ルネサンスと宗教改革 3 スペインの盛衰とオランダの繁栄 3章 ヨーロッパ諸国の主権強化と大西洋三角貿易 1 17世紀の危機と西ヨーロッパ諸国の主権強化 2 東ヨーロッパ諸国の台頭とヨーロッパ文化の成熟 3 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易 4章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 1 世界で最初の工業化	□ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 □ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。 □ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。 □近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。	プリント提出 中間考査
	2部 地球社会形成の模索 1章 世界の一体化の完成とその影響 1 帝国主義と世界分割競争 2 アジア知識人による体制改革の試み 2章 世界大戦の時代 1 第一次世界大戦と社会主義革命	□アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解する。 □ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 □クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシアの皇帝主導の近代化を理解する。 □アメリカ合衆国の発展を理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
2	2 アメリカの独立 3 フランス革命と国民国家の誕生 4 ラテンアメリカにおける環大西洋革命 5章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 1 イギリスの覇権と自由主義 2 ヨーロッパに広がる国民国家 3 アメリカ合衆国の拡大と国家統合	□西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化、ヨーロッパ諸国の干渉による清の変容とその意義を理解する。動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジアの再編を理解する。	プリント提出 中間考査
	6章 世界の一体化の進展とアジアの変容 1 イスラーム諸国の変容と模索 2 南アジア・東南アジアの植民地化と社会変容 3 東アジア諸国の模索と変容	□帝国主義時代における欧米列強の国家・社会の変化や、世界各地の分割や植民地化をめぐる競合、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解する。 □第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらした、20世紀の変動の基点となったことを理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
3	2 第一次世界大戦とアジアのナショナリズムの展開 3 大衆社会の到来とファシズムの出現 4 第二次世界大戦とその惨禍	□ヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向やアジア・アフリカ諸国の展開を理解する。 □世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解する。 □第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解する。	プリント提出 中間考査
	3章 東西冷戦から多極的国际社会へ 1 アメリカの覇権と冷戦の展開 2 多極化の始まり 3 米ソ二極時代の終焉 4章 相互依存を深める世界 1 社会主義圏の解体と国際秩序の変容 2 グローバル化の動きと世界の変化	□第二次大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。 □冷戦の激化から日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解する。 □アジアアフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解する。 □ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解する。 □東欧社会主義圏の消滅とソ連の解体、1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解する。 □世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。	プリント提出 ノート提出 学年末考査

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
地歴 公民科	世界史A	2	2年環境理数コース必修	合田・田中宗
教科書	明解世界史A（帝国書院）	副教材	なし	

1. 学習の目標

具体的な歴史事象を様々な観点から論理的に学ぶことにより、歴史的洞察力・認識力を培います。人類の誕生に始まり、文明が形成されていく過程、各文明圏が発展・交流していく過程を学びます。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考查対策等について）

予習より復習を中心に行ってください。暗記することはもちろん大切です。授業中に基本事項を暗記してください。一方で、1つ1つの出来事について、なぜそのような出来事が起こったのか、その結果どうなったのか、ということについても理解するようにしてください。全体を関連づけて考え、流れを理解することも重要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめり（定期考查までを学習のひとまとめり）ごとに基準に評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度（私語、居眠り、内職をしない） ノートや課題プリントなどの提出状況
②思考・判断・表現 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考查、小テスト、提出課題の内容など
③技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	資料活用の技能・表現」（史料の講読など） 関連教科、周辺科目の知識の活用
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考查、小テスト、提出課題の内容など

4. 担当者からのメッセージ

「歴史なんて、覚えなアカンことばかりで、いやや」という声をよく耳にします。確かに、基本的な事項は暗記しなければなりません。本来歴史を学ぶということは、過去の人々の生き方、国々の興亡について学び、考えるということです。歴史を学ぶことで、自分自身を省み、自分の、日本の、世界の過去・現在・未来について、多角的な視野で考えられる人になってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動
1	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 国際 環境 序節 人類の始まり 1節 東アジアの文明 2節 南アジアの文明 3節 東南アジアの文明	☐ 人類が文明を築き、歴史時代へ入っていく様子を概観し、各地域世界が形成過程を理解する。 ☐ 東アジアの風土と諸民族、漢字文化圏などを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。 ☐ 南アジアの風土と諸民族、カースト制、諸宗教の影響などを通して、南アジアの文明の特質を理解する。 ☐ インドと中国のはざまにあり、両文明の影響を受けながらそれぞれの地域で多様な社会・文化を築いていった東南アジアの特質を理解する。	プリント提出
	4節 西アジア・北アフリカの文明 5節 ヨーロッパの文明 6節 南北アメリカの文明 7節 ユーラシアの交流圏 国際 環境 2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	☐ オリент文明・イラン文明の伝統にふれ、西アジアの特徴を把握し、イスラームの成立と拡大・分裂などを通して、西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。 ☐ ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明、キリスト教の発展、封建社会などを通して、ヨーロッパの文明の特質を理解する。 ☐ ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。 ☐ ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、ユーラシアの交流圏が成立していく様子を把握し、相互の文化受容の進展について理解する。 ☐ アジア諸国の政治と社会にふれ安定した支配と経済の繁栄のもと文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
2	2節 大航海時代と新たな国家の形成 国際 3章 欧米の工業化とアメリカの諸革命 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	☐ ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓などにふれ、16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと主権国家体制の形成について理解する。 ☐ アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	プリント提出 中間考査
	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺 4節 東アジアの大変動 国際	☐ 19世紀後半のヨーロッパ・アメリカ社会を通して、自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。 ☐ ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺のようすを理解する。 ☐ アヘン戦争などにより、東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折など、東アジアの大変動を理解する。	プリント提出 ノート提出 期末考査
3	2部 地球社会と日本 国際 1章 現代社会の芽生えと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成 2節 第一次世界大戦がもたらしたもの 3節 “民族自決”を求めて	☐ 社会の大衆化と政治や文化の変容、国民統合などを通して20世紀という時代の特徴を把握するとともに、欧米諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合と人口移動から、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。 ☐ 第一次世界大戦、ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20世紀初頭の変化の様相を理解する。 ☐ アジア諸地域の民族運動を通して、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	プリント提出
	4節 経済危機から第二次世界大戦へ 国際 2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代 2節 冷戦終結への道のり 3節 地球社会への歩み 4節 持続可能な社会をめざして	☐ 第二次世界大戦の原因や影響を理解し、平和の意義などについて考察する。20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。 ☐ 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。 ☐ 1970年代以降は市場経済の世界化をはじめ、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、世界が大きく変容し今日に至っていることを理解する。	プリント提出 ノート提出 学年末考査

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な探究の時間	北稜探究(総合社会・地域活性化プロジェクト)	1	2年生英語人文コース(選択)	松原 久・大島結人 合田和史
教科書	授業時にプリント配布	副教材		

1. 学習の目標

学校は地域とつながりを持ちながら教育活動を行っている一方で、そこで学ぶ高校生は、学校がおかれている地域とあまりつながっていないのが現状です。本プロジェクトでは地域に対する「課題発見力」や「課題解決力」をやしなうとともに、地域と連携しながらその魅力や課題について探求・発信し、持続可能な地域活性化の提案をすすめていくものです。このプロジェクトを通じて、大学の研究に連結するスキルを習得することを目指します。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

このプロジェクトはSDGs(持続可能な開発目標)の目標11「住み続けられるまちづくりを」をベースに、プロジェクトチームで行います。資料等をまとめるだけでなく、地域に出向きステークホルダー(大学、関係機関、地域住民の方々ほか)との関係を構築しながら、「アシ」で収集したデータを用いて分析、考察、提言を行うため、大学のゼミレベルの内容だと思ってください。地域活性化のためになる、地域目線の調査活動を求めます。プロジェクトチーム毎に定期的なカウンセリング、中間発表を行い、最終的には全校生徒または2年生全体とステークホルダーを招いて実践発表会を行います。また、調査結果を報告書としてまとめ、地域に還元します。計画的かつ能動的に取り組まないと大変なことになるので注意してください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	プロジェクトへの参加状況、レポート、報告書提出など ステークホルダーとの良好な関係の構築 ステークホルダーからの評価も重視します
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	収集データの適切な取捨選択の状況 地域目線でプロジェクトが遂行されているか
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	レポート、発表(パワポ、プレゼン)、プロダクツの出来映え 地域目線で考察されているか 報告書の出来映え
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	社会調査法の基本スキルの理解 史資料の分析と適切な引用 プロジェクトに関わる基礎知識の理解

4. 担当者からのメッセージ

昨年度履修した先輩方より、「何も分からないまま放置すると、今後が危うくなることを身をもって実感した」、「最初はこういうプロジェクトを進めて行くのが初めてというのもあって、計画的に進めることができなかったり、思い通りに行かないこともあったけれど、プロジェクトが進むにつれて一つのゴールに向けて計画的に行動することができたと思う。後々しんどくならないように計画的に、早め早めにやるのが大事だと思います!」、「色々な人から意見を聞くことが大切だと思う。でもそれは言うてくれるのを待つのではなく自分から積極的に意見を貰えるように行動しなければならないと思う。意見を貰うためには自分が理解していないと出来ないと思うし、自分はどうしたいのかも整理しておかないといけないと思う。」週1回の授業で全てを完了することはできません。普段から情報収集と分析を行い、授業時には、とりまとめの発表・報告をするという流れを理解してください。つまり、常に宿題が出ている状態ということです。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	(1) 社会調査法 ・地域課題の発見 ・文献研究の方法 ・デザインコンセプトの構築 ・調査写真の撮り方 (2) 事例研究1 ・地域課題の解決に向けて地元高校生に期待されること ・プロダクツを通じた地域連携 (3) 研究協議 ・研究計画書の作成方法 ・地域課題の情報共有 ・予備調査	・地域調査法の基本的スキルを習得する ・地域課題を発見することができる ・事例研究を通じて、地域課題における解決方法の糸口をさぐる ・地域に出向き、情報収集をする ・収集した情報を分析できる	・講義 ・個別ポートフォリオ ・地域に出向き実習 ・大学教員による講義 ・個別ポートフォリオ ・個別ポートフォリオ ・チームポートフォリオ ・地域に出向き調査
2	夏季休業中 ・調査活動 (4) 事例研究2 ・地域課題を地元目線で解決した (5) 調査活動発表会 (6) プロジェクト活動 (7) プロジェクト中間発表会 (8) 実践発表会に向けての取組	・地域から情報収集ができる ・事例研究を通じて、地域課題における解決方法の糸口をさぐる ・調査状況を伝えることができる ・チーム内で能動的に調査活動ができる ・調査結果等を簡潔に伝え、質疑応答ができる ・発表内容を深めることができる ・発表原稿執筆&チェック、完成	・地域に出向き調査しまとめる ・大学教員による講義 ・パワポによる発表 ・調査内容の不足を補い、質の高い調査とまとめを行う ・パワポによる発表 ・チームで深く考え成果物を発信する
3	冬季休業中 ・実践発表会準備 (9) 実践発表会練習 (10) 実践発表会 (11) 報告書執筆 (12) ステークホルダーへの御礼	・発表パワポ完成 ・伝わる事を意識した発表ができる ・多くの人に伝え合意形成を図ることができる ・調査内容を「見える化」し、多くの人に提言できる	・質の高い発表を行う準備 ・質の高い発表の実施 ・研究報告書の流儀に則った報告書の執筆

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅱ	4	2年総合探究コース	高田・嶋崎・岸田・中田
教科書	数研出版 改訂版 高等学校 数学Ⅱ	副教材	数研出版 REPEAT 数学Ⅱ	

1. 学習の目標

複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識し、それらを活用する態度を育てる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。
 【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。
 【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート)・作品等の提出状況、課題(ノート)・作品等の内容
②数学的な見方や考え方 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート)等・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③数学的な技能 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
	到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	
1	複素数とその計算	☐ 虚数単位 i の意味を理解できる。	☐ 複素数 $(a+bi)$ の四則演算ができる。 ☐ 負の数の平方根の計算をすることができる。	☐ 複素数の相等条件を理解し、実部、虚部を決めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など
	2次方程式の解	☐ 解の公式を用いて2次方程式の解を複素数の範囲で求めることができる。	☐ 解の判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別することができる。	☐ 2次方程式の解の種類から、2次方程式の係数を求めることができる。	
	解と係数の関係	☐ 2次方程式の解と係数の関係から、解の和と積を求めることができる。	☐ 解と係数の関係を用いて、対称式の値を求めることができる。	☐ 解と係数の関係を用いて2次方程式の係数を求めることができる。	
	剰余の定理と因数定理	☐ 剰余の定理を用いて1次式で割ったときの余りを求めることができる。	☐ 因数定理を用いて、1次式の因数を求めることができる。	☐ 3次以上の整式の因数分解をすることができる。	
	高次方程式		☐ 因数分解の公式や置き換えを用いて、高次方程式を解くことができる。	☐ 因数定理を利用して3次以上の整式を因数分解し、高次方程式を解くことができる。	中間考査(50分)
	直線上の点	☐ 与えられた座標を直線上に図示することができる。	☐ 直線上における2点間の距離を理解している。 ☐ 直線上における内分点・外分点・中点の意味を理解している。	☐ 直線上における2点間の距離を求めることができる。 ☐ 直線上における内分点・外分点・中点の座標を求めることができる。	
	平面上の点	☐ 与えられた座標を平面上に図示することができる。	☐ 平面上における2点間の距離を理解している。 ☐ 平面上における内分点・外分点・中点・重心の意味を理解している。	☐ 平面上における2点間の距離を求めることができる。 ☐ 平面上における内分点・外分点・中点・重心の座標を求めることができる。	
	直線の方程式	☐ 直線の方程式から傾きと切片(x と y 両方)を求めることができる。	☐ 平面上に直線を描くことができる。	☐ 傾きと通る1点から直線の方程式を求めることができる。 ☐ 通る2点から直線の方程式を求めることができる。	
	2直線の関係	☐ 2直線が平行・垂直であることの意味を理解している。	☐ 平行条件と垂直条件を理解している。 ☐ 点と直線の距離を理解している。	☐ 与えられた直線に平行・垂直な直線の方程式を求めることができる。 ☐ 点と直線距離を求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など
	円の方程式	☐ 円の中心と半径の意味を理解している。	☐ 円の方程式から中心と半径を求めることができる。 ☐ 中心と半径から円の方	☐ 円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。	
	円と直線	☐ 円と直線の位置関係がイメージできる。	☐ 円と直線の位置関係と方程式の実数解の関係性を理解できる。 ☐ 中心から直線までの距離と半径による位置関係を理解できる。	☐ 共有点の座標や位置関係から係数を求めることができる。 ☐ 接点から接線の方程式を求めることができる。 ☐ 共有点の個数を求めることができる。	
	2つの円	☐ 2つの円の位置関係がイメージできる。	☐ 中心同士の距離と2つの半径による位置関係を理解できる。	☐ 2つの円の方程式から位置関係を調べることができる。 ☐ 2つの円の位置関係から1つの円の方程式を求めることができる。	
	軌跡と方程式	☐ 軌跡の意味を理解している。	☐ 与えられた条件を満たす点の軌跡をイメージできる。	☐ 座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(定点のみ)	期末考査(50分)
	不等式の表す領域	☐ 領域の意味を理解している。	☐ 与えられた不等式の表す領域をイメージできる。	☐ 領域を図示することができる。 ☐ 境界線の有無を判断できる。	
	角の拡張	☐ 度数法において一般角を図示できる	☐ 弧度法の定義を理解し、弧度法を度数法に変換することができる	☐ 有名角の弧度法を覚えている	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習など
	三角関数	☐ 三角関数の定義を理解している。三角関数の符号の変化を理解している	☐ 三角関数の値を求めることができる ☐ 相互関係の式を覚えている	☐ 有名角の三角関数の値を覚えている ☐ 相互関係を利用して三角関数の値を求めることができる	
	三角関数のグラフ	☐ グラフの基本形をかくことができる ☐ 周期を理解している	☐ グラフを平行移動 y 軸方向に拡張することができる	☐ グラフを x 軸方向に拡大縮小することができる、周期を求めることができる	
	三角関数の性質	☐ 周期性を利用した等式や対称性を利用した等式を理解できる	☐ 周期性や対称性を利用して値を求めることができる	☐ $\theta + \pi$ や $\theta + 1/2\pi$ の三角関数の値を求めることができる	
	三角関数の応用	☐ 角度が θ である三角関数の方程式を解くことができる	☐ 角度が $\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる	☐ 角度が $m\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる ☐ 角度が θ の不等式を解くことができる	
	加法定理	☐ 加法定理の基本の6つの式が書ける	☐ 加法定理を用いて三角関数の値を求めることができる	☐ 加法定理を利用して式の値を求めることができる	
	加法定理の応用	☐ 加法定理の基本の式から2倍角の公式や半角の公式が求められることを理解している	☐ 2倍角の公式や半角の公式を正しく書ける	☐ 2倍角の公式や半角の公式を利用して、値を求めることができる ☐ 三角関数の合成ができる	中間考査(50分)

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標			学習活動
到達レベル		レベル1	レベル2	レベル3	
2	指数の拡張	□指数が0や負の整数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	□累乗根の意味と性質を理解し、それを含む式や値の計算ができる。	□指数が有理数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など
	指数関数	□指数関数の底について説明できる。	□指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	□基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	
	指数関数の特徴	□増加関数と減少関数について知っている。	□指数関数のグラフから累乗根の値の変化を予測できる。	□底の値によって、増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	
	指数関数を含む方程式・不等式	□指数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、解くことができる。	□指数関数の特徴を理解し、指数関数を含む簡単な不等式を解くことができる。	□底が異なる指数関数を含む方程式の解法を理解し、解くことができる。	
	対数とその性質	□対数の意味と表し方を理解している。	□指数と対数の関係を理解している。	□底の変換公式などの対数の性質を理解し、様々な対数を含む式の計算ができる。	
	対数関数	□対数関数の底について説明できる。また、指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	□基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	□対数関数の特徴を理解し、底の値によって増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すこと	
	対数関数を含む方程式・不等式	□真数条件について理解している。	□対数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	□対数関数を含む簡単な不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	
	常用対数	□常用対数がどのような対数であるか理解している。	□常用対数を整理し、常用対数表から値を求めることができる。	□常用対数が非常に大きい数や小さい数を表すときに便利であることを理解し、それを利用して桁数や小数の位を求めることができる。	期末考査(50分)
3	1. 微分係数	□平均変化率を求めることができる。	□極限値の表し方や意味について理解し、それらを求めることができる。	□微分係数の定義とその表記の仕方を理解し、それを求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など
	2. 導関数	□導関数がどのような関数であるか理解している。	□導関数を定義に従って求める式について理解している。	□様々な関数(x,y以外の変数であっても)の導関数を求めることができる。さらに、それを利用して微分係数を求めることができる。	
	3. 接線の方程式	□接線の傾きと微分係数の関係がわかる。	□グラフ上の点における接線の傾きを求めることができる。	□グラフ上の点における接線の方程式を求めることができる。	
	4. 関数の増減と極大・極小	□関数の増減と導関数の符号の関係について理解している。	□関数の増減表を作成し、増減を調べることができる。さらに極値があるかを調べることができる。	□3次関数のグラフをかくことができる。さらに、その極値を求めることができる。	中間考査(50分)
	5. 不定積分	□原始関数について理解している。	□不定積分や積分定数の意味とそれらの表し方を理解している。	□不定積分の性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習など
	6. 定積分	□定積分の表し方を理解している。	□定積分を求めることができる。	□定積分の様々な性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	
	7. 定積分と面積	□定積分の図形的な意味を知っている。	□曲線とx軸の間の面積を求めることができる。	□2つの曲線の間の面積を求めることができる。	

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	?個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅱ+B	4+2	2年環境理数コース	岸田・安藤
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 改訂版 高等学校 数学B(数研出版)	副教材	改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B 数研出版 黄チャート 数学Ⅱ+B	

1. 学習の目標

式と証明、高次方程式(複素数を含む)、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、物事を論理的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度・力を養う。

数列においては並んだ数の規則性を見つけ第 n 番目を求めたり、和を求めたりという、数列の処理を学び、ベクトルでは図形処理(平面・空間)を計算で行うことを学ぶ。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。

【復習】授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。

【考査対策】普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート)・作品等の提出状況、課題(ノート)・作品等の内容
②数学的な見方や考え方 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート)等・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③数学的な技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと思っています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標					学習活動
到達レベル		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	
	2次方程式の解	☐ 解の公式を用いて2次方程式の解を複素数の範囲で求めることができる。	☐ 解の判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。	☐ 2次方程式の解の種類から、2次方程式の係数を決めることができる。			中間考査(80分)
	解と係数の関係	☐ 2次方程式の解と係数の関係から、解の和と積を求めることができる。	☐ 解と係数の関係を用いて、対称式の値を求めることができる。	☐ 解と係数の関係を用いて2次方程式の係数を決めることができる。	☐ 解の存在範囲の条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	☐ 解の存在範囲が複雑な条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	
	剰余の定理と因数定理	☐ 剰余の定理を用いて1次式で割ったときの余りを求めることができる。	☐ 因数定理を用いて、1次式の因数を求めることができる。	☐ 3次以上の整式の因数分解をすることができる。	☐ 剰余の定理を用いて、整式を多項式で割ったときの余りを求めることができる。		
	高次方程式		☐ 因数分解の公式や置き換えを用いて、高次方程式を解くことができる。	☐ 因数定理を利用して3次以上の整式を因数分解し、高次方程式を解くことができる。	☐ 与えられた解を用いて高次方程式の係数を決めることができる。	☐ 3次方程式の解と係数の関係を理解し、問題が解ける	
	直線上の点	☐ 与えられた座標を直線上に図示することができる。	☐ 直線上における2点間の距離を理解している。 ☐ 直線上における内分点・外分点・中点の意味を理解している。	☐ 直線上における2点間の距離を求めることができる。 ☐ 直線上における内分点・外分点・中点の座標を求めることができる。	☐ 与えられた条件から、条件を満たす直線上の点の座標を求めることができる。		
	平面上の点	☐ 与えられた座標を平面上に図示することができる。	☐ 平面上における2点間の距離を理解している。 ☐ 平面上における内分点・外分点・中点・重心の意味を理解している。	☐ 平面上における2点間の距離を求めることができる。 ☐ 平面上における内分点・外分点・中点・重心の座標を求めることができる。	☐ 与えられた条件から、条件を満たす平面上の点の座標を求めることができる。 ☐ 2点間の距離を用いて、三角形の形状を調べることができる。	☐ 座標を用いて、等式の証明を行うことができる。	
	直線の方程式	☐ 直線の方程式から傾きと切片(xとy両方)を求めることができる。	☐ 平面上に直線を描くことができる。	☐ 傾きと通る1点から直線の方程式を求めることができる。 ☐ 通る2点から直線の方程式			
	2直線の関係	☐ 2直線が平行・垂直であることの意味を理解している。	☐ 平行条件と垂直条件を理解している。 ☐ 点と直線の距離を理解している。	☐ 与えられた直線に平行・垂直な直線の方程式を求めることができる。	☐ 点と直線距離を求めることができる。	☐ 線対称な点や垂直二等分線の方程式を求めることができる。 ☐ 直線の方程式や点と直線の距離を用いて、三角形の面積を求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	円の方程式	☐ 円の中心と半径の意味を理解している。	☐ 円の方程式から中心と半径を求めることができる。 ☐ 中心と半径から円の方	☐ 円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。 ☐ 与えられた3点から円の方	☐ 一般形の表す図形を判断することができる。	☐ 複雑な条件から円の方程式を求めることができる。 ☐ 三角形の外心の座標を求めることができる。	
	円と直線	☐ 円と直線の位置関係がイメージできる。	☐ 円と直線の位置関係と方程式の実数解の関係性を理解できる。 ☐ 中心から直線までの距離と半径による位置関係を理解できる。	☐ 共有点の座標や位置関係から係数を求めることができる。 ☐ 接点から接線の方程式を求めることができる。 ☐ 共有点の個数を求めること	☐ 円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 円が直線から切り取る線分の長さを求めることができ	☐ 円と直線の交点を通る円の方程式を求めることができる。 ☐ 複雑な条件から円の接線や円の方程式を求めることができる。	
	2つの円	☐ 2つの円の位置関係がイメージできる。	☐ 中心同士の距離と2つの半径による位置関係を理解できる。	☐ 2つの円の方程式から位置関係を調べることができる。	☐ 2つの円の位置関係から1つの円の方程式を求めることができる。 ☐ 2つの円の共有点の座標を求めることができる。	☐ 2つの円が共有点を持つ条件(または持たない条件)を求めることができる。 ☐ 2つの円の交点を通る円の方程式を求めることができ	
	軌跡と方程式	☐ 軌跡の意味を理解している。	☐ 与えられた条件を満たす点の軌跡をイメージできる。	☐ 座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(定点のみ)	☐ 座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(動点含む)	☐ 線対称な直線の方程式を求めることができる。 ☐ パラメータ表示で表された点か、どのような図形上を動くか求めることができる。	
	不等式の表す領域	☐ 領域の意味を理解している。	☐ 与えられた不等式の表す領域をイメージできる。	☐ 領域を図示することができる。 ☐ 境界線の有無を判断でき	☐ 領域を証明に活用できる。 ☐ 領域内の格子点の個数を求めることができる。	☐ 線形計画法の問題を解くことができる。	
	角の拡張	☐ 度数法において一般角を図示できる	☐ 弧度法の定義を理解し、弧度法を度数法に変換することができる	☐ 有名角の弧度法を覚えている	☐ 弧度法を用いて、扇形の面積や弧長を求めることができる		期末考査(50分)
	三角関数	☐ 三角関数の定義を理解している。三角関数の符号の変化を理解している	☐ 三角関数の値を求めることができる ☐ 相互関係の式を覚えている	☐ 有名角の三角関数の値を覚えている ☐ 相互関係を利用して三角関数の値を求めることができ	☐ 対称式を含む式の値を求めることができる ☐ 相互関係を利用して等式の証明ができる	☐ 複雑な式変形を伴う等式を証明できたり、式の値を求めることができる	
	三角関数のグラフ	☐ グラフの基本形をかくことができる ☐ 周期を理解している	☐ グラフを平行移動・y軸方向に拡張することができる	☐ グラフをx軸方向に拡大縮小することができ、周期を求めることができる	☐ グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせるグラフの値を求めたり、周期を求めることができる	☐ グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせるグラフを書くことができる	
	三角関数の性質	☐ 周期性を利用した等式や対称性を利用した等式を理解できる	☐ 周期性や対称性を利用して値を求めることができる	☐ $\theta + \pi$ や $\theta + 1/2\pi$ の三角関数の値を求めることができる	☐ $\pi - \theta$ 、 $\pi/2 - \theta$ の三角関数の値を求めることができる	☐ 複雑な式の値を求めることができる	
	三角関数の応用	☐ 角度が θ である三角関数の方程式を解くことができる	☐ 角度が $\theta + n\pi$ のタイプの方程式を解くことができる	☐ 角度が $m\theta + n\pi$ のタイプの方程式を解くことができる ☐ 角度が θ の不等式を解くことができる	☐ 角度が $\theta + n\pi$ のタイプの不等式を解くことができる ☐ 複雑な方程式・不等式を解くことができる	☐ 三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる	
	加法定理	☐ 加法定理の基本の6つの式が書ける	☐ 加法定理を用いて三角関数の値を求めることができる	☐ 加法定理を利用して式の値を求めることができる	☐ tanの加法定理を利用して2直線のなす角を求めることができる	☐ 加法定理を利用して座標平面上の点を回転移動することができる	
	加法定理の応用	☐ 加法定理の基本の式から2倍角の公式や半角の公式が求められることを理解している	☐ 2倍角の公式や半角の公式を正しく書ける	☐ 2倍角の公式や半角の公式を利用して、値を求めることができる ☐ 三角関数の合成ができる	☐ 2倍角の公式や半角の公式を利用する方程式・不等式を解くことができる	☐ 積和変換、和積変換を理解し、正しくかけ、問題に適用することができる	
	指数の拡張	☐ 指数が0や負の整数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	☐ 累乗根の意味と性質を理解し、それを含む式や値の計算ができる。	☐ 指数が有理数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	☐ 様々な指数を含む式や値の四則計算をすることができる。	☐ 指数が実数の範囲まで拡張できること、負の数の累乗根の存在について理解している。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 作品課題 グループ学習 など
	指数関数	☐ 指数関数の底について説明できる。	☐ 指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	☐ 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	☐ 平行移動・対称移動した指数関数のグラフをかくことができる。	☐ 関数の式から平行移動・対称移動を読み取ることができる。	
	指数関数の特徴	☐ 増加関数と減少関数について知っている。	☐ 指数関数のグラフから累乗根の値の変化を予測できる。	☐ 底の値によって、増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	☐ 底の値が異なる場合であっても大小関係を示すことができる。		
	指数関数を含む方程式・不等式	☐ 指数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、解くことができる。	☐ 指数関数の特徴を理解し、指数関数を含む簡単な不等式を解くことができる。	☐ 底が異なる指数関数を含む方程式の解法を理解し、解くことができる。	☐ 底が異なる指数関数を含む不等式の解法を理解し、解くことができる。	☐ 指数関数を置き換えることにより、関数の最大値最小値を求めることができる	
	対数とその性質	☐ 対数の意味と表し方を理解している。	☐ 指数と対数の関係を理解している。	☐ 底の変換公式などの対数の性質を理解し、様々な対数を含む式の計算ができる。	☐ 底の変換公式などの対数の性質を利用し、複雑な対数を含む式の計算ができる。		

2	対数関数	☐ 対数関数の底について説明できる。また、指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	☐ 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	☐ 対数関数の特徴を理解し、底の値によって増加関数が減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	☐ 指数関数のグラフと対数関数のグラフの対称性がわかる。さらに、平行移動・対称移動した指数関数のグラフをかくことができる。	
	対数関数を含む方程式・不等式	☐ 真数条件について理解している。	☐ 対数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	☐ 対数関数を含む簡単な不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	☐ 対数の様々な性質を利用して、複雑な対数関数を含む方程式・不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	☐ 底の異なる指数関数の方程式・不等式を対数を利用して解くことができる。
	常用対数	☐ 常用対数がどのような対数であるか理解している。	☐ 常用対数を整理し、常用対数表から値を求めることができる。	☐ 常用対数が非常に大きい数や小さい数を表すときに便利であることを理解し、それを利用して桁数や小数の位を求めることができる。	☐ 常用対数を利用して、非常に大きい(または小さい)値をとる指数の値を求めることができる。	中間考査(50分)
	ベクトル ベクトルの演算	☐ ベクトルの向き、大きさ、相等について理解している。	☐ ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みや、逆ベクトル、零ベクトルについて理解している。	☐ 有効線分で表されたベクトルについて、和、差、実数倍を求めることができる。 ☐ 数式の演算法則との類似性を理解し計算することがで	☐ ベクトルの一意性を理解し、有向線分で表されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。	
	ベクトルの成分	☐ ベクトルの成分表示の仕方を理解している。	☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算の仕方を理解している。 ☐ 座標平面上の点とベクトルの成分の関係について	☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	☐ 成分表示されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。 ☐ 成分表示された2つのベクトルの平行条件を理解し、計算に利用できる。	
	ベクトルの内積	☐ 内積の定義を理解している。 ☐ 内積は実数であることを理解している。	☐ ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 ☐ 成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。	☐ ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 ☐ ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	☐ 内積の性質(計算法則)を理解し、計算に利用できる。 ☐ ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	位置ベクトル	☐ 位置ベクトルの考え方を理解している。	☐ 線分の内分点、外分点や三角形の重心を位置ベクトルで表す式を理解し	☐ 線分の内分点、外分点や三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。	☐ ベクトルで表された等式を、位置ベクトルを用いて証明できる。	
	ベクトルの図形への応用			☐ 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。	☐ 線分上の点を、線分をs:(1-s)に内分する点として処理できる。	
	図形のベクトルによる表示		☐ 直線のベクトル方程式を理解している。	☐ 直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。	☐ 円や円の接線のベクトル方程式を理解している。	
	空間の点 空間ベクトル	☐ 空間における座標軸のとり方を理解し、点の座標、原点との距離などが求められる。	☐ 空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえ、和、差、実数倍の計算方法を理解している。	☐ 空間ベクトルの和、差、実数倍を求めることができる。	☐ ベクトルの一意性を理解し、空間のベクトルを、与えられた3つのベクトルで表すことができる。	
	空間ベクトルの成分	☐ 空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて理解している。	☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	☐ 座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。	☐ 空間内の与えられた点を頂点とする平行四辺形や平行六面体の他の頂点を求めることができる。	
	空間ベクトルの内積	☐ ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できる。	☐ ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 ☐ 成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。	☐ ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 ☐ ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	☐ 与えられた3点を頂点とする三角形の面積を求めることができる。	
	空間ベクトルの図形への応用	☐ ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解している。	☐ 空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察し、内分点や外分点の位置ベクトルを求めることができる。	☐ 空間において3点が一直線上にあるための条件を理解し、ベクトルで表現して利用できる。	☐ 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。	
	空間における図形	☐ 座標空間における線分の長さや内分点・外分点の座標が求められる。	☐ 座標平面上に平行な平面の方程式を理解している。	☐ いろいろな球面の方程式が求められる。 ☐ 球面の方程式から、中心、半径を読み取ることができる。	☐ 座標平面上に平行な平面と球面の交わりの方程式を求めることができる。	期末考査(50分)
	数列と一般項	☐ 数の並びに興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	☐ 数列の定義、表記について理解している。	☐ 数列の一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	☐ 数の並びから、その規則性を発見することができる。	
3	等差数列	☐ 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	☐ 等差数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	☐ 初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	☐ 等差中項の性質を理解し、問題を解くことができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	等差数列の和	☐ 等差数列の和を導く過程を理解しようとする。	☐ 等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	☐ 自然数の和、奇数の和、倍数の和などが求められる。	☐ 等差数列の和の公式を利用して、和の最大値などを求められる。	
	等比数列	☐ 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	☐ 等比数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	☐ 初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	☐ 等比中項の性質を理解し、問題を解くことができる。	
	等比数列の和	☐ 等比数列の和を導く過程を理解しようとする。	☐ 等比数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	☐ 等比数列の和の値から数列の一般項を求めることができる。	☐ 等比数列を満たす3数の和から、その3数を求めることができる。	
	和の記号Σ	☐ 記号Σの意味を理解し、Σの式を和の形で表すことができる。	☐ 記号Σの意味を理解し、数列の和をΣの式で表すことができる。	☐ 自然数の和や2乗の和の公式を利用して和の計算ができる。	☐ 数列の和をΣで表し、和の計算を簡単に行うことができる。	
	階差数列	☐ 数列の規則性の発見に階差数列が利用できることを理解しようとする。	☐ 階差数列を用いてもとの数列の一般項を導く過程を理解しようとする。	☐ 階差数列を利用して、もとの数列の具体的に項の値が求められる。	☐ 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。	
	いろいろな数列の和		☐ 分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に1つずつ分数が残るパターン)	☐ 分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に2つずつ分数が残るパターン)	☐ 〔等差〕×〔等比〕の形の数列の和を求めることができる。	
	漸化式	☐ 漸化式の意味を理解し、具体的に項の値が求められる。	☐ 既習の等差数列・等比数列について、漸化式を用いて考察できる。	☐ 既習の階差数列について、漸化式を用いて考察できる。	☐ 漸化式が1次式で表される数列について、漸化式を適切に変形することにより、一般項を求めることができる。	
	数学的帰納法	☐ 自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることが理解で	☐ 数学的帰納法を用いて等式を証明できる。	☐ 数学的帰納法を用いて不等式を証明できる。	☐ 数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。	中間考査(50分)
	微分係数	☐ 平均変化率を求めることができる。	☐ 極限値の表し方や意味について理解し、それらを求めることができる。	☐ 微分係数の定義とその表記の仕方を理解し、それを求めることができる。	☐ 微分係数の関数のグラフにおけるその図形的な意味を理解している。	

導関数	☐ 導関数がどのような関数であるか理解している。	☐ 導関数を定義に従って求める式について理解している。	☐ 様々な関数(x , y 以外の変数であっても)の導関数を求めることができる。さらに、それを利用して微分係数を求めることができる。	☐ 導関数を定義に従って求めることができる。 ☐ 導関数を定義に従って求めた式から関数 x^n 及び定数関数の導関数の公式を予測できることを理解している。	☐ 関数 x^n の導関数の公式を二項定理で証明することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
接線の方程式	☐ 接線の傾きと微分係数の関係がわかる。	☐ グラフ上の点における接線の傾きを求めることができる。	☐ グラフ上の点における接線の方程式を求めることができる。	☐ グラフ上にない点から引いた接線の方程式を求めることができる。ま ☐ 定数 t を用いて接線の方程式をたてることができる。	☐ 接線の方程式を判別式の条件から求めることができる。	
関数の増減と極大・極小	☐ 関数の増減と導関数の符号の関係について理解している。	☐ 関数の増減表を作成し、増減を調べることができる。さらに極値があるかを調べることができる。	☐ 3次関数のグラフをかくことができる。さらに、その極値を求めることができる。	☐ 3次式以上の関数のグラフ作成、それらの関数の最大値・最小値を求めることができる。		
不定積分	☐ 原始関数について理解している。	☐ 不定積分や積分定数の意味とそれらの表し方を理解している。	☐ 不定積分の性質を理解し、(変数が x 以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	☐ 導関数や関数値の条件から、もとの関数式を求めることができる。		
定積分	☐ 定積分の表し方を理解している。	☐ 定積分を求めることができる。	☐ 定積分の様々な性質を理解し、(変数が x 以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	☐ 定積分を含む等式の関数の導関数の表記の仕方を理解し、それらを求めることができる。		
定積分と面積	☐ 定積分の図形的な意味を知っている。	☐ 曲線と x 軸の間の面積を求めることができる。	☐ 2つの曲線の間の面積を求めることができる。	☐ 絶対値を含む関数や3次(4次)関数の面積を求めることができる。		学年末考査(50分)

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができている。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	7個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	数学Ⅱ+B	4+2	2年 英語人文コース	角谷
教科書	改訂版 高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 改訂版 高等学校 数学B(数研出版)	副教材	改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学Ⅱ+B 数研出版 黄チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B	

1. 学習の目標

式と証明、高次方程式(複素数を含む)、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、物事を論理的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを活用する態度・力を養う。

数列においては並んだ数の規則性を見つけ第 n 番目を求めたり、和を求めたりという、数列の処理を学び、ベクトルでは図形処理(平面・空間)を計算で行うことを学ぶ。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

【予習・復習】 公式とその活用法をしっかりと身に付ける。それらを忘れない努力をする。

【復習】 授業で解説した問題とその類似問題(問題集の利用)を何度も解きしっかりと基礎を身に付ける。

【考査対策】 普段からコツコツと取り組んで知識を定着させる。考査が近づいてから学習を始めるといった形にならないようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(ノート)・作品等の提出状況、課題(ノート)・作品等の内容
②数学的な見方や考え方 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、小テスト、課題(ノート)等・作品の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
③数学的な技能 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと思っています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標				学習活動
	到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	
	2次方程式の解	□解の公式を用いて2次方程式の解を複素数の範囲で求めることができる。	□解の判別式を用いて、2次方程式の解の種類を判別できる。	□2次方程式の解の種類から、2次方程式の係数を求めることができる。		小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	解と係数の関係	□2次方程式の解と係数の関係から、解の和と積を求めることができる。	□解と係数の関係を用いて、対称式の値を求めることができる。	□解と係数の関係を用いて2次方程式の係数を求めることができる。	□解の存在範囲の条件を満たすような値の範囲を解と係数の関係を用いて求めることができる。	
	剰余の定理と因数定理	□剰余の定理を用いて1次式で割ったときの余りを求めることができる。	□因数定理を用いて、1次式の因数を求めることができる。	□3次以上の整式の因数分解をすることができる。	□剰余の定理を用いて、整式を多項式で割ったときの余りを求めることができる。	
	高次方程式		□因数分解の公式や置き換えを用いて、高次方程式を解くことができる。	□因数定理を利用して3次以上の整式を因数分解し、高次方程式を解くことができる。	□与えられた解を用いて高次方程式の係数を求めることができる。	
	直線上の点	□与えられた座標を直線上に図示することができる。	□直線上における2点間の距離を理解している。 □直線上における内分点・外分点・中点の意味を理解している。	□直線上における2点間の距離を求めることができる。 □直線上における内分点・外分点・中点の座標を求めることができる。	□与えられた条件から、条件を満たす直線上の点の座標を求めることができる。	中間考査(80分)
	平面上の点	□与えられた座標を平面上に図示することができる。	□平面上における2点間の距離を理解している。 □平面上における内分点・外分点・中点・重心の意味を理解している。	□平面上における2点間の距離を求めることができる。 □平面上における内分点・外分点・中点・重心の座標を求めることができる。	□与えられた条件から、条件を満たす平面上の点の座標を求めることができる。 □2点間の距離を用いて、三角形の形状を調べることができる。	
	直線の方程式	□直線の方程式から傾きと切片(xとy両方)を求めることができる。	□平面上に直線を描くことができる。	□傾きと通る1点から直線の方程式を求めることができる。 □通る2点から直線の方程式を求めることができる。		
	2直線の関係	□2直線が平行・垂直であることの意味を理解している。	□平行条件と垂直条件を理解している。 □点と直線の距離を理解している。	□与えられた直線に平行・垂直な直線の方程式を求めることができる。 □点と直線距離を求めることができる。	□点と直線距離を求めることができる。	
	円の方程式	□円の中心と半径の意味を理解している。	□円の方程式から中心と半径を求めることができる。 □中心と半径から円の方程式を求めることができる。	□円の方程式の一般形から中心と半径を求めることができる。	□一般形の表す図形を判断することができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
	円と直線	□円と直線の位置関係がイメージできる。	□円と直線の位置関係と方程式の実数解の関係性を理解できる。 □中心から直線までの距離と半径による位置関係を理解できる。	□共有点の座標や位置関係から係数を求めることができる。 □接点から接線の方程式を求めることができる。 □共有点の個数を求めることができる。	□円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 □円が直線から切り取る線分の長さを求めることができる。	
	2つの円	□2つの円の位置関係がイメージできる。	□中心間の距離と2つの半径による位置関係を理解できる。 □2つの円の方程式から位置関係を調べることができる。	□2つの円の交点を求めることができる。 □2つの円の位置関係から1つの円の方程式を求めることができる。	□2つの円の共有点を通る直線・曲線の方程式を求めることができる。	
	軌跡と方程式	□軌跡の意味を理解している。	□与えられた条件を満たす点の軌跡をイメージできる。	□座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(定点のみ)	□座標を用いて点の軌跡を求めることができる。(動点含む)	
	不等式の表す領域	□領域の意味を理解している。	□与えられた不等式の表す領域をイメージできる。	□領域を図示することができる。 □境界線の有無を判断できる。	□領域を証明に活用できる。 □領域内の格子点の個数を求めることができる。	表現 期末考査(80分)
	角の拡張	□弧度法において一般角を図示できる	□弧度法の定義を理解し、弧度法を度数法に変換することができる	□有名角の弧度法を覚えている	□弧度法を用いて、扇形の面積や弧長を求めることができる	
	三角関数	□三角関数の定義を理解している。三角関数の符号の変化を理解している	三角関数の値を求めることができる □相互関係の式を覚えている	□有名角の三角関数の値を覚えている □相互関係を利用して三角関数の値を求めることができる	□対称式を含む式の値を求めることができる □相互関係を利用して等式の証明ができる	
	三角関数のグラフ	□グラフの基本形をかくことができる □周期を理解している	□グラフを平行移動・y軸方向に拡張することができる	□グラフをx軸方向に拡大縮小することができる、周期を求めることができる	□グラフの平行移動・x軸やy軸方向への拡大縮小を組み合わせてグラフの値を求めたり、グラフを書き、周期を求めることができる	
	三角関数の性質	□周期性を利用した等式や対称性を利用した等式を理解できる	□周期性や対称性を利用して値を求めることができる	□ $\theta + \pi$ や $\theta + 1/2\pi$ の三角関数の値を求めることができる	□ $\pi - \theta$ 、 $\pi/2 - \theta$ の三角関数の値を求めることができる	
	三角関数の応用	□角度が θ である三角関数の方程式を解くことができる	□角度が $m\theta + n$ のタイプの方程式を解くことができる □角度が θ の不等式を解くことができる	□角度が $m\theta + n$ のタイプの不等式を解くことができる □複雑な方程式・不等式を解くことができる	□三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる	

加法定理	☐ 加法定理の基本の6つの式が書ける	☐ 加法定理を用いて三角関数の値を求めることができる	☐ 加法定理を利用して式の値を求めることができる	☐ tanの加法定理を利用して2直線のなす角を求めることができる
加法定理の応用	☐ 加法定理の基本の式から2倍角の公式や半角の公式が求められることを理解している	☐ 2倍角の公式や半角の公式を正しく書ける	☐ 2倍角の公式や半角の公式を利用して、値を求めることができる ☐ 三角関数の合成ができる	☐ 2倍角の公式や半角の公式を利用する方程式・不等式を解くことができる
指数の拡張	☐ 指数が0や負の整数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	☐ 累乗根の意味と性質を理解し、それを含む式や値の計算ができる。	☐ 指数が有理数である場合の累乗の意味がわかる。またそれらを含む式や値の計算ができる。	☐ 様々な指数を含む式や値の四則計算をすることができる。 ☐ 指数が実数の範囲まで拡張できることを理解している
指数関数	☐ 指数関数の底について説明できる。	☐ 指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	☐ 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	☐ 平行移動・対称移動した指数関数のグラフをかくことができる。 ☐ 関数の式から平行移動・対称移動を読み取ることができる。
指数関数の特徴	☐ 増加関数と減少関数について知っている。	☐ 指数関数のグラフから累乗根の値の変化を予測できる。	☐ 底の値によって、増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	☐ 底の値が異なる場合であっても大小関係を示すことができる。
指数関数を含む方程式・不等式	☐ 指数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、解くことができる。	☐ 指数関数の特徴を理解し、指数関数を含む簡単な不等式を解くことができる。	☐ 底が異なる指数関数を含む方程式の解法を理解し、解くことができる。	☐ 底が異なる指数関数を含む不等式の解法を理解し、解くことができる。
対数とその性質	☐ 対数の意味と表し方を理解している。	☐ 指数と対数の関係を理解している。	☐ 底の変換公式などの対数の性質を理解し、様々な対数を含む式の計算ができる。	☐ 底の変換公式などの対数の性質を利用し、複雑な対数を含む式の計算ができる。
対数関数	☐ 対数関数の底について説明できる。また、指数関数のグラフの特徴を底の値によって説明することができる。	☐ 基本的な指数関数のグラフを式をみてかくことができる。	☐ 対数関数の特徴を理解し、底の値によって増加関数か減少関数のどちらであるかを判断し、いくつかの数の大小関係を示すことができる。	☐ 指数関数のグラフと対数関数のグラフの対称性がわかる。さらに、平行移動・対称移動した指数関数のグラフをかくことができる。
対数関数を含む方程式・不等式	☐ 真数条件について理解している。	☐ 対数関数を含む簡単な方程式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	☐ 対数関数を含む簡単な不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。	☐ 対数の様々な性質を利用し、複雑な対数関数を含む方程式・不等式の解法を理解し、真数条件に気をつけて解を求めることができる。
常用対数	☐ 常用対数がどのような対数であるか理解している。	☐ 常用対数を整理し、常用対数表から値を求めることができる。	☐ 常用対数が非常に大きい数や小さい数を表すときに便利であることを理解し、それを利用して桁数や小数の位を求めることができる。	☐ 常用対数を利用して、非常に大きい(または小さい)値をとる指数の値を求めることができる。
ベクトル ベクトルの演算	☐ ベクトルの向き、大きさ、相等について理解している。	☐ ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みや、逆ベクトル、零ベクトルについて理解している。	☐ 有効線分で表されたベクトルについて、和、差、実数倍を求めることができる。 ☐ 数式の演算法則との類似性を理解し計算することができる。	☐ ベクトルの一意性を理解し、有向線分で表されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。
ベクトルの成分	☐ ベクトルの成分表示の仕方を理解している。	☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算の仕方を理解している。 ☐ 座標平面上の点とベクトルの成分の関係について理解している。	☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。 ☐ 成分表示された2つのベクトルの平行条件を理解し、計算に利用できる。	☐ 成分表示されたベクトルを、2つのベクトルの和、差に表現できる。 ☐ 図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。
ベクトルの内積	☐ 内積の定義を理解している。 ☐ 内積は実数であることを理解している。	☐ ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 ☐ 成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。	☐ ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 ☐ ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	☐ 内積の性質(計算法則)を理解し、計算に利用できる。 ☐ ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。 ☐ 三角形の面積を内積を用いて求めることができる。
位置ベクトル	☐ 位置ベクトルの考え方を理解している。	☐ 線分の内分点、外分点や三角形の重心を位置ベクトルで表す公式を理解している。	☐ 線分の内分点、外分点や三角形の重心の位置ベクトルを求めることができる。	☐ ベクトルで表された等式を、位置ベクトルを用いて証明できる。
ベクトルの図形への応用		☐ 3点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。	☐ 線分上の点を、線分をs:(1-s)に内分する点として処理できる。	☐ 図形の性質を位置ベクトルを利用して証明できる。また、等式を満たす点の位置を求めることができる。
図形のベクトルによる表示		☐ 直線のベクトル方程式を理解している。	☐ 直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。	☐ 円や円の接線のベクトル方程式を理解している。
空間の点 空間ベクトル	☐ 空間における座標軸のとり方を理解し、点の座標、原点との距離などが求められる。	☐ 空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえ、和、差、実数倍の計算方法を理解している。	☐ 空間ベクトルの和、差、実数倍を求めることができる。	☐ ベクトルの一意性を理解し、空間のベクトルを、与えられた3つのベクトルで表すことができる。

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
作品課題
グループ学習 など

中間考査(80分)

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

	空間ベクトルの成分	☐ 空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて理解している。	☐ 成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。	☐ 座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。	☐ 空間内の与えられた点を頂点とする平行四辺形や平行六面体の他の頂点を求めることができる。
	空間ベクトルの内積	☐ ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できる。	☐ ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。 ☐ 成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。	☐ ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。 ☐ ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。	☐ 与えられた3点を頂点とする三角形の面積を求めることができる。 ☐ 内積の性質を理解し、計算に利用できる。
	空間ベクトルの図形への応用	☐ ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解している。	☐ 空間における図形を、1つの頂点に関する位置ベクトルで考察し、内分点や外分点の位置ベクトルを求めることができる。	☐ 空間において3点が一直線上にあるための条件を理解し、ベクトルで表現して利用できる。	☐ 3点で定まる平面上に点Pがあることを、ベクトルで表現して利用できる。
	空間における図形	☐ 座標空間における線分の長さや内分点・外分点の座標が求められる。	☐ 座標平面に平行な平面の方程式を理解している。	☐ いろいろな球面の方程式が求められる。 ☐ 球面の方程式から、中心、半径を読み取ることができる。	☐ 座標平面に平行な平面と球面の交わりの方程式を求めることができる。 ☐ 平面と直線のベクトル方程式を求めることができる。
					期末考査(80分)
	数列と一般項	☐ 数の並びに興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	☐ 数列の定義、表記について理解している。	☐ 数列の一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	☐ 数の並びから、その規則性を発見することができ、一般項を考察できる。
	等差数列	☐ 等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	☐ 等差数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	☐ 初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	☐ 等差中項の性質を理解し、問題を解くことができる。
	等差数列の和	☐ 等差数列の和を導く過程を理解しようとする。	☐ 等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	☐ 自然数の和、奇数の和、倍数の和などが求められる。	☐ 等差数列の和の公式を利用して、和の最大値などを求められる。 ☐ 等差数列を満たす3数の和・積から、その3数を求めることができる。
	等比数列	☐ 等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。	☐ 等比数列の公差、一般項などを理解し、一般項から具体的に数列を書き並べることができる。	☐ 初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。	☐ 等比中項の性質を理解し、問題を解くことができる。
	等比数列の和	☐ 等比数列の和を導く過程を理解しようとする。	☐ 等比数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	☐ 等比数列の和の値から数列の一般項を求めることができる。	☐ 等比数列を満たす3数の和から、その3数を求めることができる。 ☐ 身近な例(複利計算)を考察し、解決できる。
	和の記号 Σ	☐ 記号 Σ の意味を理解し、 Σ の式を和の形で表すことができる。	☐ 記号 Σ の意味を理解し、数列の和を Σ の式で表すことができる。	☐ 自然数の和や2乗の和の公式を利用して和の計算ができる。 ☐ 数列の和を Σ で表し、和の計算を簡単に行うことができる。	☐ 第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。
	階差数列	☐ 数列の規則性の発見に階差数列が利用できることを理解しようとする。	☐ 階差数列を用いてもとの数列の一般項を導く過程を理解しようとする。	☐ 階差数列を利用して、もとの数列の具体的に項の値が求められる。	☐ 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ☐ 和から一般項を求めることができる。
	いろいろな数列の和		☐ 分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に1つずつ分数が残るパターン)	☐ 分数の形になっている数列を部分分数に分けることにより、和を求めることができる。(最初と最後に2つずつ分数が残るパターン)	☐ $(\text{等差}) \times (\text{等比})$ の形の数列の和を求めることができる。 ☐ 群数列を理解し、和や特定の項を求めることができる。
3	漸化式	☐ 漸化式の意味を理解し、具体的に項の値が求められる。	☐ 既習の等差数列・等比数列について、漸化式を用いて考察できる。 ☐ 既習の階差数列について、漸化式を用いて考察できる。	☐ 漸化式が1次式で表される数列について、漸化式を適切に変形することにより、一般項を求めることができる。	☐ 隣接3項間の漸化式に興味を持ち、考察しようとする。
	数学的帰納法	☐ 自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効であることが理解できる。	☐ 数学的帰納法を用いて等式を証明できる。	☐ 数学的帰納法を用いて不等式を証明できる。 ☐ 数学的帰納法を用いて、整数の性質を証明できる。	☐ 様々な自然数nに関する明大の証明を数学的帰納法を用いて証明できる。
	微分係数	☐ 平均変化率を求めることができる。	☐ 極限値の表し方や意味について理解し、それらを求めることができる。	☐ 微分係数の定義とその表記の仕方を理解し、それを求めることができる。	☐ 微分係数の関数のグラフにおけるその図形的な意味を理解している。
	導関数	☐ 導関数がどのような関数であるか理解している。	☐ 導関数を定義に従って求める式について理解している。	☐ 様々な関数(x, y以外の変数であっても)の導関数を求めることができる。さらに、それを利用して微分係数を求めることができる。	☐ 導関数を定義に従って求めることができる。 ☐ 導関数を定義に従って求めた式から関数 $x^{\frac{1}{n}}$ 及び定数関数の導関数の公式を求めることができる。
					中間考査(80分)

小テスト
課題(ノート)提出
課題発表
グループ学習 など

接線の方程式	☐ 接線の傾きと微分係数の関係がわかる。	☐ グラフ上の点における接線の傾きを求めることができる。 ☐ グラフ上の点における接線の方程式を求めることができる。	☐ グラフ上にない点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ☐ 定数tを用いて接線の方程式をたてることができる。	☐ 接線の方程式を判別式の条件から求めることができる。	小テスト 課題(ノート)提出 課題発表 グループ学習 など
関数の増減と極大・極小	☐ 関数の増減と導関数の符号の関係について理解している。	☐ 関数の増減表を作成し、増減を調べることができる。さらに極値があるかを調べることができる。	☐ 3次関数のグラフをかくことができる。さらに、その極値を求めることができる。	☐ 3次式以上の関数のグラフ作成、それらの関数の最大値・最小値を求めることができる。	
不定積分	☐ 原始関数について理解している。	☐ 不定積分や積分定数の意味とそれらの表し方を理解している。	☐ 不定積分の性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	☐ 導関数や関数値の条件から、もとの関数式を求めることができる。	
定積分	☐ 定積分の表し方を理解している。	☐ 定積分を求めることができる。	☐ 定積分の様々な性質を理解し、(変数がx以外の文字であっても)様々な計算をすることができる。	☐ 定積分を含む等式の関数の導関数の表記の仕方を理解し、それらを求めることができる。	
定積分と面積	☐ 定積分の図形的な意味を知っている。	☐ 曲線とx軸の間の面積を求めることができる。	☐ 2つの曲線の間の面積を求めることができる。	☐ 絶対値を含む関数や3次(4次)関数の面積を求めることができる。	
					学年末考査(80分)

数学科ルーブリック

到達レベル	1	2	3
【ノート提出】 意欲・関心	問題集を用いて、テスト範囲の問題ができていない。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の問題演習ができています。	問題集を用いて、一通りテスト範囲の演習を済ませたうえで、反復練習をしたり、理解するための工夫をしている。
【夏の課題研究】 意欲・関心	作品を提出していない。	グラフアートを描いている。	7個以上の関数を用いてグラフアートを描いている。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、他の人の意見をまとめたりして、グループで思考の仮定を共有することができる。

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
数学	北稜探究Ⅱ	1	2年 環境理数コース	中田
教科書	なし	副教材	なし	

1. 学習の目標

これまでに学んだ知識や技能及び2年次で習得する知識や技能を利用して、「問題発見能力」「論理的思考力」「問題解決能力」を高める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

数学Ⅰ・Aまでの知識が必要な問題を解いたり、課題研究をします。高校1年生までの学習内容に不安がある人は、復習をしておいてください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、文言によって評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、授業態度、課題(レポート)等の提出状況、課題(レポート)等の内容 まとめテスト(考査期間中ではなく、授業時間内に実施)、課題(レポート)等の内容、グループ発表及び個人での課題発表の内容
②数学的な見方や考え方 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	
③数学的な技能 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	

4. 担当者からのメッセージ

「その定理、生活の中で何の役に立つの?」という声を良く聞きます。実際、それらを普段の生活の中で使う人はほんの一握りでしょう。だとすると、学ばなくて良いのでしょうか? 数学は特に問題解決能力を育む教科だと考えています。生活をしていれば、多くの解決し難い問題に直面します。社会人となれば今の比になりません。そのような時に論理的に考え、自ら解決できるような力を数学という教科で身に付けてほしいと考えています。

年間学習計画

学期	学習内容	到達目標	学習活動
1～3	高校数学の各単元の演習・探究	☐ 課題プリント(レポート)の基本問題を解くことができる。 ☐ 課題プリント(レポート)の発展問題を解くことができる。 ☐ 数学ⅠAⅡB以上の発展的な問題に挑戦し、自ら解決することができる。	まとめテスト 課題(レポート)作成 課題(レポート)提出 グループ学習 課題発表 など 表現
	日常的問題の解決に数学を活用する ・ソファ問題 ・割当問題 ・フィボナッチ数列(黄金比) ・必勝法 ・折り紙 など	☐ 数学ⅠAⅡB以上の発展的な問題に挑戦し、グループで解決することができる。 ☐ 提出物(レポート等)は必ず期限を守って提出することができる。 ☐ 自分の考えや仲間と協力して考えた考えをしっかりとレポートにすることができる。 ☐ 自分の考えや仲間と協力して考えた考えをしっかりと発表することができる。	

到達レベル	レベル1	レベル2	レベル3
【レポート提出】 意欲・関心	与えられた問題ができていない。 決められた期限を守ることができない。	問題集等を用いて、一通りの問題演習が できている。	問題集等を用いて、一通りの演習を済ませ たうえで、理解を深めるための工夫をして いる。
【グループワーク】 知識・理解	学習内容を説明することができない。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を 説明することができる。	与えられた課題の意味を理解し、学習内容を 論理的に簡潔に説明することができる。
【グループワーク】 協働的態度	共同作業の中で、自分の意見を出したり、 話し合った内容をまとめたりできない。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、 話し合った内容をまとめたりできる。	共同作業の中で、自分の意見を出したり、 他の人の意見をまとめたりして、グループ で思考の仮定を共有することができる。

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	物理基礎	2	2年環境理数コース	A 福井 仁 B 波多野 剛正
教科書	物理基礎 (東京書籍)	副教材	四訂版 リードα 物理基礎 (数研出版)	

1. 学習の目標

目的意識をもって観察、実験などを行い、身の回りで起こっている物理現象を科学的に分析・探究する能力が身についたか。また、その中に貫かれている物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方ができるようになったか。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・授業に集中し、授業内容をその場その場で確実に理解する。
- ・授業時間数が少ないので、学んだ内容を問題集で演習しながら復習する。
- ・その際、答えに至る理由や計算式を必ず書くこと。他人が見ても分かる答案づくりを心がけること。
- ・学力は、基本の理解と演習量に比例するので、授業と自宅での学習にしっかりと取り組んでください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業プリントの記入(プリント1枚ごとに回収) 板書の記入だけでなく、自分で理解したことが記入されているか。 ・演習問題への取り組み状況(単元ごとに実施) 期限までに提出できているか。 ・実験レポートの提出 実験のデータの記入・分析がしっかりされているか。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト 答えだけではなく考え方の過程や計算がきちんと書けているか。 ・実験レポートの内容 結果に対する考察がしっかりと記入されているか。 必要な情報を自分で調べているか。
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・実験の技能・表現 実験手順をよく理解し、器具や装置を正しく操作できているか。 実験データを表やグラフで適切に表現できているか。 ・演習問題や定期考査を解答する際、計算過程や理由の説明が読み手に分かるように丁寧に記述されているか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト、レポート 学習した内容を理解し、知識が定着しているか。

4. 担当者からのメッセージ

物理はすべての化学や生物、地学といった自然科学のベースとなる学問分野です。物理を理解すると、自然現象が起こる原因や仕組みがわかり、どんどん追究してみたくなるはずです。したがって、物理が分かるということは、答えを計算できるということではなく、その答えにいたる考え方が分かるということなのです。分からなかったことが分かるようになる面白さは格別です。是非あなたも、物理を学習することによって、分かることの醍醐味を味わってみてください。

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動 1 速度 2 加速度 3 落体の運動	・物体の変位や速度がベクトル量であることを理解し、速度、速さの計算ができる。 ・等加速度運動を理解し、公式を条件に応じて適用できる。 ・落体の運動を、等加速度運動の応用として理解し公式を適用できる。	レポート・課題提出 小テスト ＜中間考査＞	【 】 【 】 【 】
	第2章 力と運動 1 力 2 運動の法則 3 様々な力と運動	・物体に力が働くと変形したり、速度の変化が生じることを理解している。 ・力と加速度、質量の関係から運動の法則、運動方程式を導くことができる。 ・運動方程式が様々な運動に適用できることを理解し、応用できる。	レポート・課題提出 小テスト 国際 ＜期末考査＞	【 】 【 】 【 】
2	第3章 仕事とエネルギー 1 仕事 2 運動エネルギー 3 位置エネルギー 4 力学的エネルギーの保存	・仕事の定義と仕事の原理を理解し、身の回りの現象が説明できる。 ・エネルギーが仕事をする能力であることから、運動エネルギーの公式を導くことができる。 ・エネルギーが仕事をする能力であることから、重力による位置エネルギーと弾性力による位置エネルギーの公式を導くことができる。 ・保存力のみがはたらく場合には、運動を通じて力学的エネルギーが一定に保たれることを理解し、力学的エネルギー保存の法則を幅広く適用できることができる。	レポート・課題提出 小テスト ＜中間考査＞	【 】 【 】 【 】 【 】
	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー 1 熱と温度 2 熱量 ＜発展＞圧力とは、気体の法則 3 熱の利用	・温度とは粒子の熱運動の激しさの尺度であることがイメージでき、物質の状態が粒子の熱運動と粒子間の引力の相互関係で決まることが理解できる。 ・物質固有の量の一つである比熱の意味が分かり、熱量保存の法則を用いて物質どうしの接触による温度変化を計算できる。 ・気体の圧力が分子の運動の結果であることを理解する。気体の圧力、温度、体積の関係をボイル・シャルルの法則で計算できる。 ・熱力学第1法則が熱を含むエネルギー保存則であることを理解し、様々な気体の状態変化に適用できる。	レポート・課題提出 小テスト 表現 実験・レポート提出 環境 ＜期末考査＞	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
3	第2章 波とエネルギー 1 波の伝わり方 2 波の性質 ＜発展＞平面波・回折と干渉 3 音波 4 音源の振動	・波の進行方向と媒質の振動方向の違い、 y - x グラフと y - t グラフの違いが理解できる。波の基本式を用いて、波長、振動数、速さなどの波の要素が計算できる。 ・反射・屈折・回折などの仕組みが分かり、日常的に起こる波の現象を説明できる。波の干渉条件をイメージと数式の両方で理解し、応用できる。 ・音波は、音源の振動が疎密波となって空気を伝える現象であることを理解し、一般的な縦波の理論を適用することができる。 ・物体が固有振動数と等しい振動を与えられると共鳴することを理解する。弦の振動や気柱の振動を、定常波の理論を用いて説明できる。	レポート・課題提出 環境 小テスト 実験・レポート提出 ＜学年末考査＞	【 】 【 】 【 】 【 】

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	化学	5	2年環境理数コース	中野 源大
教科書	改訂版 化学（啓林館）	副教材	2022実践アクセス総合化学(浜島書店)・三訂版フォトサイエンス化学図録(数研出版)	

1. 学習の目標

物質とその変化について、化学的な解釈や説明ができることを通して、興味・関心を探究心にまで高め、主体的に解決しようとする意欲を高めることができる。
 自分自身で課題を見つけ、主体的・意欲的に観察、実験などに取り組むことができる。
 化学的な事物・現象に関する基礎的な知識および基本的な概念や原理・法則を、深く系統的に理解することができる。
 物質やその変化に関する原理・法則を系統的に理解し、自然界の事物・現象を総合的に考察する能力を生かすことができる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査および小テストの成績、さらに実験レポート、授業ノート(プリント)等も含めた平常点を総合的に評価する。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	・授業への出席状況、受講態度 授業に集中し、意欲的に取り組んでいるか。 自分で工夫してノートへの記入を行っているか。 ・ノート、課題、レポート等の提出状況 授業内容および課せられた課題を適切にまとめているか。 提出期限を守って、提出されているか。
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト 答えを導き出す過程が記されているか。 ・レポート内容 結果のみでなく、考察がされているか。
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	・観察・実験の技能・表現、発表等 実験器具等を正しく操作しているか。 予想や考察内容が具体的に表現されているか。
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	・定期考査、小テスト、レポート内容等 学習した内容が正確に理解されているか。

4. 担当者からのメッセージ

化学基礎で学習した内容を基にして、より専門的な内容を学習します。「化学」の面白さを実感するためには、自らが意欲的に学ぶ姿勢が大切です。実験実習も、より専門的な化学実験を行います。探究心を持って、実験に取り組み、「化学」の面白さを体験してください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	【化学基礎】第2部 物質の変化			
	第2章 酸と塩基			
	第3節 酸・塩基の中和と塩	・酸と塩基が中和するときのしくみや量的関係を理解する。滴定操作により酸や塩基の濃度を求めることができることを実験を通して理解し、計算方法も体得する。また、滴定曲線と指示薬の関係も理解する。 ・塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質を理解する。	CODを用いた水質分析実験  	【 】 【 】
	第3章 酸化還元反応	・電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という指標を用いて酸化・還元を考え、理解を深める。		【 】
	第1節 酸化と還元	・酸化剤や還元剤のはたらきと、そのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元反応の量的関係も理解する。		【 】
	第2節 酸化剤と還元剤	・金属が水溶液中でイオンになる反応は、酸化還元反応の一つであり、イオンへのなりやすさ、つまり金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。		【 】
	第3節 金属の酸化還元反応			
	【化学】第2部 物質の変化と平衡			
	第2章 化学反応と電気エネルギー			
	第1節 電池	・電解質水溶液と金属を利用することによって、電池ができることを理解する。それぞれの電池の電極における反応についても知る。また、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。	電池の誤飲による化学反応を確かめる実験 	【 】
	第2節 電気分解	・水溶液を電気分解したときにどのような物質が生成するかを理解する。また、ファラデーの法則を学び、電気分解における反応物・生成物の量は流れた電気量と密接に関連していることを、演習を通して体得する。		【 】
2	第1部 物質の状態			
	第1章 固体の構造			
	第1節 粒子の結びつきと結晶	・物質が連続性をもたない小さな粒子からなること、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかなどは化学基礎で学習しているが、ここで一通り復習する。また、非晶質については、通常の結晶との違いについて理解する。		【 】
	第2節 結晶の構造	・イオン結晶の種類や表し方・特徴的な性質・構造、構造とイオン半径の比の関係について理解する。金属の結晶格子について、種類や密度、アボガドロ定数との関係を理解し、計算方法も体得する。		【 】
	第3節 アモルファス(非晶質)	・非晶質について通常の結晶との違いを理解し、非晶質の構造をもつ物質について学ぶ。		【 】
	第2章 物質の状態変化			
	第1節 状態変化	・状態変化の原因が分子間力であることを理解し、そのときのエネルギーの出入りについても把握する。また、融点・沸点が物質の種類、とくに結合の種類によってどのように異なるかを、分子間力や化学結合の強弱から考察する。		【 】
	第2節 気液平衡と蒸気圧	・気液平衡の概念を理解し、蒸気圧、蒸気圧と沸騰の関係、物質の状態図についても学ぶ。		【 】
	第3章 気体の性質	・気体の体積と圧力との関係、温度との関係が簡単な数式で表せることを学び、これに関連する絶対温度の概念を復習する。また、温度や圧力が同時に変化した場合に気体の体積がどうなるかを考える。		【 】
	第1節 気体の体積の変化	・ボイル・シャルルの法則をもとにして気体の状態方程式を導くことができることを理解する。また、気体の種類によらず気体の状態方程式が成り立つことから、これを利用して気体の分子量の測定ができることを学ぶ。		【 】
	第2節 気体の状態方程式	・混合気体について、ある体積をそれぞれの気体が単独で占めたときの圧力を考え、それらの関係がどのようにになっているかを理解し、さらに全体の圧力との関係も理解する。 ・気体に関する法則は、理想的な粒子を考えた場合に成り立つものであって、実際に自然界に存在する気体では、ずれが生じることを理解する。		【 】

	第4章 溶液の性質	・飽和溶液の溶質、溶媒についてどのような量的な関係が成りたつかを考え、計算方法を体得する。		【 】
	第1節 溶解平衡と溶解度			【 】
	第2節 希薄溶液の性質	・気体の溶解度は固体とは異なり、圧力と関係していることを理解し、計算方法も体得する。		【 】
	第3節 コロイド	・希薄溶液では溶質に依存しない共通の性質が現れること、その影響は沸点や凝固点、浸透圧に及ぶこと、それを利用することによって分子量の測定ができることなどを実験を通して学ぶ。 ・コロイド溶液には、通常の溶液とは異なるさまざまな性質があることを理解する。とくに身近なところでいろいろな形で存在することを学ぶ。	コロイド粒子を用いた水の浄環	【 】
2	第2部 物質の変化と平衡			
	第1章 化学反応と熱・光エネルギー			【 】
	第1節 反応熱と熱化学方程式	・化学反応の種類と反応熱および状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び、これらを熱化学方程式で表すことができることを理解する。		【 】
	第2節 ヘスの法則	・ヘスの法則を用いると未知の熱量を計算で求められることを学ぶ。あわせて共有結合の結合エネルギーについても学ぶ。		【 】
	第3章 反応速度	・化学反応の速さの表し方や反応の速さを決める条件について、化学反応が起こるときの仕組みなどとの関係を理解する。		【 】
	第1節 反応の速さ	・活性化エネルギー、触媒の働き方をもとに、化学反応の仕組みについて学ぶ。		【 】
	第2節 化学反応と触媒	・化学平衡の状態やそのときの各成分の量的関係、条件の変化に伴う量的変化、ルシャトリエの原理をもとに化学平衡の移動について理解する。		【 】
	第4章 化学平衡	・水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡を電離定数をもとに理解し、平衡移動の考え方をもとに緩衝液や塩の加水分解、難溶性塩の溶解について学ぶ。		【 】
	第1節 化学平衡とその移動			【 】
	第2節 電離平衡			【 】
	第3部 無機物質			
	第1章 周期表と元素の分類			
	第1節 周期表と元素の分類	・元素の性質を周期表の位置と関連づけて理解する。		【 】
	第2章 非金属元素	①非金属元素の単体及び化合物について、それらの反応や性質を考えたり、調べたりしようとする。		【 】
	第1節 水素と貴ガス	・ハロゲンとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。		【 】
	第2節 ハロゲン	・酸素・硫黄とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。		【 】
	第3節 酸素・硫黄	・窒素・リンとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。	二酸化窒素濃度による大気分析実験	【 】
	第4節 窒素・リン	・炭素・ケイ素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。	表 環	【 】
	第5節 炭素・ケイ素	・アルカリ金属とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。		【 】
	第3章 典型金属元素	・2族元素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。		【 】
	第1節 アルカリ金属	・アルミニウムとその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元などと関連づけて理解する。		【 】
	第2節 2族元素	・亜鉛・水銀とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元、溶解度などと関連づけて理解する。		【 】
	第3節 アルミニウム	・スズ・鉛とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元、溶解度などと関連づけて理解する。		【 】
	第4節 亜鉛・水銀	・遷移元素とその化合物の性質を、電子配置や酸・塩基、酸化・還元、溶解度などと関連づけて理解する。		【 】
	第5節 スズ・鉛	・金属陽イオンが特定の陰イオンとの反応により分離できることを学ぶ。	金属陽イオンの定性分析実験	【 】
	第4章 遷移元素	・無機物質の特徴と、無機物質が私たちの生活にどのように利用されているかを理解する。		【 】
	第1節 遷移元素	・セラミックスが人間生活の中で利用されていることを、セラミックスの特徴と関連づけて学ぶ。	表 環	【 】
	第2節 金属イオンの分離と確			【 】
	第5章 生活と無機物質			
	第1節 生活と金属			【 】
	第2節 生活とセラミックス			【 】

3	第4部 有機化合物 第1章有機化合物の特徴と分類			
	第1節 有機化合物の特徴と分類	・有機化合物の一般的な性質や構造を理解し、分類や分析の仕方を学ぶ。	廃液の処理方法について 環	【 】
	第2節 有機化合物の分析	・元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることについて理解する。		【 】
	第2章脂肪族炭化水素			【 】
	第1節 飽和炭化水素	・有機化合物の基本的な化合物である炭化水素のうち、鎖式炭化水素と脂環式炭化水素の構造と性質を学ぶ。		【 】
	第2節 不飽和炭化水素	・官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応について理解する。		【 】
	第3章酸素を含む脂肪族化合物			【 】
	第1節 アルコールとエーテル	・アルコールの分類や性質とエーテルの性質を学ぶ。		【 】
	第2節 アルデヒドとケトン	・アルデヒドの性質とケトンの性質について学ぶ。		【 】
	第3節 カルボン酸	・カルボン酸の構造や性質、光学異性体について学ぶ。		【 】
	第4節 エステルと油脂	・エステルや油脂の構造、性質について学ぶ。		【 】
※R3はここまで				
	第4章芳香族化合物			
	第1節 芳香族炭化水素	・芳香族炭化水素の構造、性質や反応を理解する。	化学史について 国	【 】
	第2節 酸素を含む芳香族化合物	・酸素を含む芳香族化合物(フェノール類、芳香族カルボン酸など)の構造、性質や反応について理解する。		【 】
	第3節 窒素を含む芳香族化合物	・窒素を含む芳香族化合物(芳香族アミンなど)を学ぶ。		【 】
	第4節 有機化合物の分離	・有機化合物の性質を利用し、混合溶液の分離を理解する。		【 】
	第5章生活と有機化合物			【 】
	第1節 医薬品	・医薬品などの有機化合物と生活との関わりを化学的な面から学ぶ。		【 】
	第2節 染料	・染料について構造、性質について理解する。		【 】
	第3節 食品	・糖類とアミノ酸の構造、性質を理解する。		【 】
	第5部高分子化合物			
	第1章天然高分子化合物			
	第1節 高分子化合物の分類と特徴	・高分子化合物の分類、合成及び特徴を理解する。	プラスチック製品の課題 国 環	【 】
	第2節 糖類	・糖の種類と構造、性質について学ぶ。		【 】
	第3節 タンパク質	・タンパク質を構成する主なアミノ酸の種類や、構造、性質を理解する。また、タンパク質の高次構造や性質についても理解する。		【 】
	第4節 核酸	・核酸の構造と複製の仕組みを理解する。		【 】
	第2章合成高分子化合物			【 】
	第1節 高分子化合物の合成	・石油から人工的につくられた合成繊維やプラスチックの合成について理解する。		【 】
	第2節 合成繊維	・合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解する。		【 】
	第3節 プラスチック	・高分子材料であるプラスチックの種類、性質を理解する。		【 】
	第4節 ゴム	・ゴムの種類、構造、性質を理解する。		【 】
	第3章生活と高分子化合物			【 】
	第1節 繊維	・生活に欠かせない衣料の材料である繊維の種類や特徴を学ぶ。		【 】
	第2節 高分子化合物の利用	・特別な機能をもった機能性高分子の種類や、その働きを理解する。		【 】

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
理科	地学基礎	2	2年英語人文コース	岡和田 健文
教科書	改訂版 地学基礎（啓林館）	副教材	地学基礎の基本マスター（啓林館）	

1. 学習の目標

地球や宇宙の空間的・時間的スケールを正しく認識できるようになること。自然界で成り立っている法則性があることを理解できるようになる。科学的な手法が自然界を理解する際に有効であることを知り、探求の手段を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

授業では自分なりのノートを作成し、内容の理解に努めてください。ただ黒板を写すだけでは不十分です。後で見返したときに授業の内容を思い出せるように、メモを自分で書き加えてノートを作りましょう。授業終了後、ノートや教科書を使って確実な復習を心がけてください。理解できないところは積極的に質問し、理解を深めましょう。また、考査前には問題集を使って自分自身の理解を確認しましょう。問題集を1回解くだけでなく、理解できるまで何度も解き直しましょう。学力をつけるための学習は、どの教科、科目についても積極的な姿勢と好奇心が必要です。「おもしろくない」・「自分には必要ない」などと早急に判断せず何事にも興味を持って授業に参加してください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	定期考査の得点 ノート、レポートの提出 （黒板を写しただけではなく、自分なりに調べてまとめたものの配布したプリントが整理され、貼り付けられた物） 授業態度（教科書、ノートを持参し、メモをとりながらノートを作れているか）
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査の得点 レポート（課題に対してしっかり考えて取り組んでいるか） 授業態度（授業中の課題にしっかり取り組んでいるか）
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	定期考査の得点（記述問題をしっかり解答できているか） ノート（文章が書けているか） プリント（課題に対してしっかり書けているか） 授業態度（授業中に積極的に発言できているか）
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査の得点 レポート（授業で習った用語を用いて科学的なレポートが書けているか） 授業態度（授業の発問に対して適切に答えられているか）

4. 担当者からのメッセージ

地学は地震、火山、天気など日常と深く関わりのある分野です。興味を持って学習し、日常生活で使えるように、生きた知識を習得しましょう。また地学は様々な分野（化学、生物、物理）と深く関わりのある学問です。これまでに習ったことと関連させて学習を進めましょう。

年間学習計画

学期	学習項目	到達目標（チェックポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	第1章 地球 第1節 地球の概観	☐ 地球の形、大きさについて理解できたか		【 】
	第4部 宇宙の構成 第1節 太陽系の天体	☐ 太陽系諸天体の階層構造を理解し、太陽系のでき方について説明できるか ☐ 代表的な太陽表面現象を説明できるか		【 】 【 】
	第2節 太陽系の誕生 第3節 太陽	☐ 外層大気とスペクトルの関連性を理解できたか		【 】
	第2章 恒星としての太陽の進化 第1節 太陽と恒星 第2節 太陽の誕生と進化	☐ 恒星の明るさと色を通して恒星の天体としての特徴を理解できたか ☐ 星の進化を説明できるか		【 】 【 】
	第3章 銀河系と宇宙 第1節 銀河系とまわりの宇宙 第2節 宇宙の姿	☐ 銀河系の構造、宇宙の構造、膨張宇宙について理解できたか		【 】
	第1章 地球 第2節 地球の内部構造	☐ 地震波を用いて地球内部の層状構造を理解する	期末考査（②③④） ノート提出（①）	【 】
2	第2章 活動する地球 第1節 プレートテクトニクスと地殻の活動	☐ 地球表面の構造と運動についてプレートテクトニクスを用いて説明できるか		【 】
	第2節 地震	☐ 地震の基本的性質について学び、日本列島の地震分布と地震災害、活断層について学ぶ		【 】
	第3節 火山活動と火成岩の形成	☐ 噴火のしくみと火山噴出物について説明できるか		【 】 【 】
	変成岩とその形成	☐ 日本列島の火山分布とその原因と災害について理解できたか ☐ 代表的な火成岩の名称と特徴を説明できるか	中間考査（②③④） ノート提出（①）	【 】
	第1章 地球史の読み方 第1節 堆積岩とその形成	☐ 地表面での様々なはたらきについて説明できるか ☐ 堆積物の種類と続成作用・堆積岩について学ぶ	環境	【 】 【 】
	第2節 地層と地質構造 第3節 地球の歴史の区分化石	☐ 地層累重の法則・堆積構造・地層の対比などにより地球の歴史を編む方法を理解できたか		【 】
	第2章 地球と生命の進化 第1節 先カンブリア時代 第2節 顕生代	☐ 地球の歴史と生命の進化を関連付けて理解できたか ☐ 地球の歴史について主なできごとを把握できたか	期末考査（②③④） ノート提出（①）	【 】 【 】
3	第1章 大気の構造 第1節 大気圏 第2節 水と気象	☐ 大気の層構造とその特徴を理解できたか ☐ 空気の性質と気象現象（雲）について説明できるか	環境	【 】 【 】
	第2章 太陽放射と大気・海の運動 第1節 地球のエネルギー収支 第2節 大気の大循環	☐ 地球のエネルギーバランスについて理解し、簡単なエネルギー収支の計算ができるか ☐ 地球的規模の大気の運動について理解できたか		【 】
	第3章 日本の天気 第1節 日本の位置 第2節 冬から春の天気 第3節 夏から秋の天気	☐ 天気図を用いて日本の四季の天気の特徴を説明することができるか	環境	【 】 【 】
			学年末考査（②③④） ノート提出（①）	

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
総合的な学習の時間	北稜探究Ⅱ	1	2年環境理数コース	坂田・中野
教科書		副教材		

1. 学習の目標

地球環境問題への取り組みが人類共通の最重要課題であることを、基礎学習を通じて認識できるようになる。調査・観察・分析・統合・討論など研究成果をまとめるための方法を身につけられる。授業を通して、思考力・判断力・表現力など将来の進路選択にもつながる総合力を身につけられる。
学んだ内容を分かりやすく魅力的に伝えるためのプレゼンテーションスキルを身につけられる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

メモを取りながら講義をしっかりと聞き、内容を自分でまとめられるようにする。疑問点やさらに調べてみたい点を常に持つこと。
実験や観察では、行ったことをまとめるとともに、調査データから何が分かるのかを整理しておくこと。
グループ活動する場合は、結果からどのような結論を導くか、それをどのように発表するかなどをしっかりと討論してまとめよう。
調べ学習においては、できるだけ複数の情報源をもとにし、情報の信頼性を高めるよう努力しよう。
※人任せにするのではなく、自分の考えを持ち、全ての活動に積極的に取り組むことが重要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ（定期考査までを学習のひとまとめ）ごとに基準に

従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	講義や実習に積極的に参加しているか。また、学習内容を適切にまとめ、感想や疑問点などが整理できているか。
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	レポートや課題について単に文献を写しただけのものではなく、自分で考えて取り組んでいるか。 授業中に、自分の考えをまとめて発表しているか。
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	内容を理解し、レポートやプレゼンテーションで、文章、図、表、画像などを用いて分かりやすく表現できているか。 小学生に興味をもってもらうように分かりやすく内容や発表方法を工夫できているか。
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	講義や実習内容をしっかり理解できているか、レポートなどの提出課題で評価する。

4. 担当者からのメッセージ

北稜高校が長年取り組んできた環境保護活動を発展させ、昨年から年間を通じた授業という形で実施しています。地球研と連携し、最新の研究に関する講義に加え、実習や実験、フィールドワークを取り入れ、様々な角度から「環境」を学ぶ授業になります。また、3学期には表現力を高めるため、学んだことを小学生に伝える発表会を予定しています。この授業を通してみなさんが環境問題に関心をもつとともに、通常の授業ではできない様々な体験を通して生きた学力を身につけてくれることを願っています。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	○総合地球環境学研究所(地球研)及び京都府地球温暖化防止活動推進センター(京都府温暖化防止センター)との連携 「気候変動に関する基本的な知識の定着」 ・気候変動問題の現状、原因、現在行われている施策などを、日本国内だけでなく世界にも目を向けて学ぶ。 ・地球環境問題の調査に必要な方法を学ぶ。 ・世界で行われている最先端の研究を学ぶ。	・地球環境問題に興味を持ち、積極的に取り組んでいるか。(①) ・講義内容を理解し、ワークシートをしっかりと記入できているか。(④) ・授業で出された課題にしっかりと答えられているか。(①) ※2学期の課題研究のテーマ選択に深く関わります。最先端で研究されている地球研や京都府温暖化防止センターの研究者から生の情報を聞ける貴重な機会です。ただ話を聞くだけではなく、聞いた内容を他の人に分かりやすく伝えることを念頭に置いて、学び取ろうとする気持ちが重要です。	気候変動問題の現状、原因、現在行われている施策などを、日本国内だけでなく世界にも目を向けて知る。  	【 】 各回ごとにワークシートに記入 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
2	○1学期に聞いた気候変動問題に関する講義の内容を中心に、グループでテーマを選択し、内容を深く掘り下げる。 ・図書館の書籍やタブレットで興味を持った内容について調べ、テーマを模索する。 ・昨年の小学校との交流会での発表の様子を知り、イメージを膨らませる。	・人任せにするのではなく、グループの他の人とは違うアイデアを出せるように常に考えておくことが重要です。(①) ・新聞やインターネット、書籍などを用いて積極的にテーマを模索できているか。(②) ・講義の最後に提出する進捗表をしっかりと取り組んでいるか。(②)	小学生に発表する趣旨を理解し、どうすれば「伝わる発表」になるか試行錯誤する。  調べた知識だけではなく、フィールドワークやインタビュー、実験などを通して得られた生のデータを活用する。   	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
3	○発表準備 2学期に深めた内容を小学生に向けて分かりやすくまとめる。 発表方法の検討、製作 (Power Point)によるスライド発表やメッセージ動画を活用する ※コロナ禍でのオンライン交流も視野に入れておく) ○小学生に発表 昨年は1月に岩倉南小4年生と、2月に明德小4年生と交流予定。 ○発表後の自己分析	・発表内容・形態を分かりやすく工夫できているか。(③) ・人任せではなく、グループ全員がアイデアを出し合っているか。(①) ・グループの他のメンバーと協力して制作に関わっているか。(①) ・小学生に興味をもってもらえるように分かりやすく発表できたか。(③) ・1年間の活動を振り返り、報告書にまとめられたか。(③)	気候変動を中心とした1年間の学習(課題の発見から調査・探究、そして小学生への発表までの活動)を振り返り、自分自身の変化や成長に気づく。 	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	3	2年総合探求コース	保健体育科全員
教科書		副教材		

1. 学習の目標

(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等)
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	○健康・安全を確保し、相手を尊重し大切にしようとする事ができ、主体的に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気付くことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解でき、実生活への取り入れ、実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	陸上競技 (障害)	○健康・安全に対して高い意識を持ち学習できている。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上をめざして積極的に学習できている。 ○より高いレベルで課題設定が行え、その解決のための練習の仕方が十分できている。 ○自分の能力に応じた技能で、速く走ることができる。 ○種目の特性や技術の構造、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解できている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	球技 (テニス) (卓球)	○意欲的に授業に参加し、準備や後片づけを積極的に行うことができる。 ○状況に応じた適切な判断ができプレーできている。 ○ゲームの中で技術が正確に発揮できている。 ○ルール、及び審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	種目選択 武道(剣道) ダンス・サッカー ハンド・ソフトボール	○グループや個人の役割を果たし、協力して準備や片付けができている。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができる。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームや発表で発揮することができる。 ○ルール、及び審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
2	陸上競技 (投擲[選択])	○健康・安全に対して高い意識を持ち学習できている。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上をめざして積極的に学習できている。 ○より高いレベルで課題設定が行え、その解決のための練習の仕方が十分できている。 ○自分の能力に応じた技能で、遠くへ投げることができる。 ○種目の特性や技術の構造、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解できている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	球技 (テニス) (卓球)	○意欲的に授業に参加し、準備や後片づけを積極的に行うことができる。 ○状況に応じた適切な判断ができプレーできている。 ○ゲームの中で技術が正確に発揮できている。 ○ルール、及び審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	種目選択 武道(剣道) ダンス・サッカー ハンド・ソフトボール	○グループや個人の役割を果たし、協力して準備や片付けができている。 ○自分やチームの課題を解決するための適切な練習内容や方法などを選んだり見つけたりすることができる。 ○自分の能力や課題に応じた技能を身につけ、ゲームや発表で発揮することができる。 ○ルール、及び審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
3	陸上競技 (長距離走)	○自らの記録を向上させる楽しみや喜びを味わうことができる。 ○自らの能力に応じた目標記録や課題を定めることができる。 ○長い距離をより速く走ることができる。 ○長距離走の種目特性や技術を理解できている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	バドミントン	○意欲的に授業に参加し、準備や後片づけを積極的に行うことができる。 ○状況に応じた適切な判断ができプレーできている。 ○ゲームの中で技術が正確に発揮できている。 ○ルール、および審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
保健体育	体育	2	2年環境理数・英語人文コース	保健体育科全員
教科書		副教材		

1. 学習の目標

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

- ・集散の行動を素早く行い、規律ある態度で授業に取り組む。
- ・授業の開始と終了時に挨拶をし、返事は大きな声ではっきりと行う。
- ・正しい言葉遣いを用いて、節度ある態度で授業に臨む。
- ・授業に出席し、種目に積極的に参加したり仲間と協力しながら技能の向上を目指す。
- ・日常的に運動に親しみ、安全に授業参加できるよう準備する。
- ・各種目を通して、健康、運動、体力について相互理解し、心身の発育・発達に関連づけてまとめる。(レポート等)

3. 評価

次の各観点に基づき、学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに、基準に沿って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への積極的参加(集散・挨拶等) 他者との協力 授業準備・片付け
②思考・判断 各教科科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	種目によるレポート作成 (種目・競技と健康・体力、心身の発育・発達との関係について等)
③技能・表現 各教科科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	種目による技能テスト(記録、フォーム等)
④知識・理解 各教科科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	種目におけるレポート作成(競技の特性・特徴・ポイント・ルール等)

4. 担当者からのメッセージ

オリエンテーションの内容を正しく理解し、各授業時間を大切にしながら意欲的に取り組んで下さい。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動
1	体づくり運動	○健康・安全を確保し、相手を尊重し大切にしようとすることができ、主体的に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気付くことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解でき、実生活への取り入れ、実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	陸上競技 (障害・投てき)【選択】	○健康・安全に対して高い意識を持ち学習できている。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上をめざして積極的に学習できている。 ○より高いレベルで課題設定が行え、その解決のための練習の仕方が十分できている。 ○自分の能力に応じた技能で、速く走ることができる。 ○種目の特性や技術の構造、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解できている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	球技 (ソフトボール・テニス・卓球・バレーボール・ハンド・バドミントン)【選択】	○意欲的に授業に参加し、準備や後片づけを積極的に行うことができる。 ○状況に応じた適切な判断ができプレーできている。 ○ゲームの中で技術が正確に発揮できている。 ○ルール、及び審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
2	体づくり運動	○健康・安全を確保し、相手を尊重し大切にしようとすることができ、なお、主体的に取り組むことができる。 ○自己や仲間の課題に応じた運動を継続することができる。 ○心と体は互いに影響し変化することに気付くことができる。 ○体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うことができる。 ○体づくり運動の行い方や体力の構成要素を理解でき、実生活への取り入れ、実践することができる。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	球技 (ソフトボール・テニス・卓球・バレーボール・ハンド・バドミントン)【選択】	○意欲的に授業に参加し、準備や後片づけを積極的に行うことができる。 ○状況に応じた適切な判断ができプレーできている。 ○ゲームの中で技術が正確に発揮できている。 ○ルール、及び審判法を知っている上、自らも審判や得点係ができている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
	陸上競技 (障害・投てき)【選択】	○健康・安全に対して高い意識を持ち学習できている。 ○陸上競技に強い関心を持ち、記録の向上をめざして積極的に学習できている。 ○より高いレベルで課題設定が行え、その解決のための練習の仕方が十分できている。 ○自分の能力に応じた技能で、遠くへ投げることができる。 ○種目の特性や技術の構造、課題解決のための練習方法や学習の進め方を理解できている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)
3	陸上競技 (長距離走)	○自らの記録を向上させる楽しみや喜びを味わおうとしている。 ○自らの能力に応じた目標記録や課題を定めることができる。 ○長い距離をより速く走ることができる。 ○長距離走の種目特性や技術を理解できている。	参加状況・準備片付け(①) レポート提出(①②④) 技能テスト(③)

体育ルーブリック 授業

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	運動に意欲を持って取り組み、種目の楽しさや喜びを味わい、自分で課題を見つけ改善しようとするなど授業に主体的に取り組むことができる。	種目の楽しさや喜びを味わいながら授業に取り組むことができる。	声かけがあれば各種目の練習に取り組むことができる。	各種目の練習や試合に参加することができていない。
関心・意欲・態度	仲間と協力して授業に必要な道具の準備や片付けに積極的に取り組むことができる。	促されれば授業に必要な道具の準備や片付けに取り組むことができる。	促されれば必要な道具の準備や片付けに取り組もうとするが、途中でやめてしまう。	授業に必要な道具の準備や片付けを行うことができない。
思考・判断	周囲の状況を見て、何をすべきかの確に判断し、自己の役割を責任を持って果たすことができる。	自己に与えられた役割を果たすことができる。	自ら役割を果たそうとはしないが、促されれば行動することができる。	役割を与えられても取り組もうとしない。
技能・表現	各種目の特性を理解し、体力、技術が高まり記録や技能が向上している。また、与えられた課題を高いレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができる。	与えられた課題を一定のレベルで行うことができるが、不十分な点がある。	体力・技術が一定のレベルに到達しておらず課題を一定のレベルでできていない。
技能・表現	各種目の特性、必要な動作を理解し、正しいフォームが身についている。	正しいフォームが身につけているが、少し不十分な点がある。	ある一定フォームを身につけることができているが、不十分な点が見られる。	正しいフォームを身につけることができていない。
知識・理解	各種目の発祥に関わる歴史や特性、特徴、ルールなどを理解している。	各種目のルール・必要な知識を理解している。	各種目のルールを理解しようとしているが、わかっていない部分がある。	各種目のルールを理解できていない。

体育ルーブリック レポート

思考・判断	各種目の特徴・特性・技術等をわかりやすく図にまとめ、レポートに記入することができる。	各種目について一部不十分な点があるが図をレポートに記入することができる。	図をレポートにかけているが不十分な点が多い。	レポートを提出することができない。
知識・理解	各種目の発祥に関わる歴史や特性、必要な技術を理解し、その高め方について理解し、レポートにまとめていることができる。	各種目の発祥に関わる歴史等についてレポートに書くことができる。	レポートに必要な内容を書くことができているが、空白が多い。	レポートを提出することができない。

保健ルーブリック 授業

	A	B	C	D
関心・意欲・態度	学習テーマについて理解を深める為に予習に取り組み、発言・発表を積極的におこなうことができる。	質問に対し、発言・発表を行うことができる。	発言・発表を行うことができるが、関係ないことや確に答えることができない。	授業に集中できていないことが多く、発言・発表ができない。
関心・意欲・態度	ノートをわかりやすくまとめたり、課題に対して積極的に取り組むことができる。	ノートを書き写すことができる。課題を提出することができる。	ノートを書き写すことや課題に取り組むことができるが、不十分な点が多い。	ノートを書いていない。また、課題に取り組むことができない。

保健ルーブリック グループ学習

思考・判断	学習テーマをよく理解し、積極的にグループ内の役割分担を遂行している。発表の内容をよく理解し、わかりやすくデータを整理し、聞く側の反応を予測しながらテーマを伝えられている。	発表の内容が聞く側に伝わるように工夫をしている。グループ内の役割を行うことができる。	発表を行うことができているが、不十分な点やわかりにくいことがある。グループ内で与えられた役割に取り組むが不十分な点がある。	与えられた課題に対して、発表することができない。グループ内で協力をできておらず与えられた役割を果たせていない。
-------	---	--	---	---

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	音楽Ⅱ	2	2年・総合探求コース（選択）	田中
教科書	音楽Ⅱ改訂版 Tutti（教育出版）	副教材	改訂 音楽通論（教育芸術社）	

1. 学習の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考査対策等について）

音楽Ⅰで学んだ基礎をもとに発展的な内容に取り組みます。課題と向き合い、あきらめずに練習を繰り返すこと。学んだ表現に工夫を加え、さらに独創的な表現を追求すること。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①音楽への関心・意欲・態度 学習内容や学習活動に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出状況
②音楽表現の創意工夫 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を工夫し、どのように音楽を表すかについて思いや意図を持っているかを評価します。	課題・レポート等の内容（考察）
③音楽表現の技能 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、創造的に表しているかを評価します。	実技試験での技術的な習得と応用状況
④鑑賞の能力 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら楽曲のよさや美しさを味わって聴いているかを評価します。	課題・レポート等の内容

4. 担当者からのメッセージ

自信をもって発表ができるよう、練習時間を大切にしましょう。より魅力的な表現を目指して、何事にも積極的に、根気よく取り組みましょう。

年 間 学 習 計 画

学期	学習項目・内容の要点	学習のねらい（ポイント）	学習活動（観点）	自己評価
1	・ オリエンテーション	○幅広い音楽の世界に興味・関心を持つ。		
	・ 声の世界	○基本的な発声法や表現を習得する。 ○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫する。	レポート①②	【 】
	・ クラシックギター	○鑑賞を通して気づいたことを自分の演奏の工夫につなげる。	実技試験③④	【 】
	・ 楽典	○基本的な奏法を発展させ、演奏できる。	実技試験③	【 】
	・ 鑑賞	○楽譜について理解する（音価・音名・コード等）。 ○協奏曲の魅力に興味・関心を持つ。 ○独奏楽器と管弦楽の特徴をを理解し、よさや美しさを味わって聴く。	課題③ 表現 国際 ワークシート①②④	【 】
2	・ 合唱の世界	○ハーモニーが生み出す響きに関心を持つ。 ○詩の内容を感じ取り、その曲に合った表現を工夫する。	レポート①②	【 】
	・ キーボード	○基本的な奏法から発展させる。	実技試験③④	【 】
	・ ミュージカルと歌	○曲種に合った発声法や表現ができる。	実技試験③④	【 】
	・ 鑑賞	○ミュージカルに興味・関心を持つ。	ワークシート①②④	【 】
	・ 器楽アンサンブル (ギター又はキーボード)	○今までの学習を生かして効果的に表現できる。 ○各自の役割を理解し、アンサンブルができる。	発表③④ 表現	【 】
3	・ 鑑賞	○人形浄瑠璃について知り、興味・関心を持つ。 ○日本の伝統音楽について理解し、よさや美しさを味わって聴く。	ワークシート①②④	【 】
	・ 創作	○基礎的な創作を通じて、独創的な表現を身につける。 ○意図を持って表現に取り組む。	ワークシート・課題②③ 表現	【 】
	・ 声の世界	○曲種に合った発声法や表現ができる。	実技試験③④	【 】
			国際	【 】

芸術（音楽）ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度 (レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できない。	内容が不十分である。期限内に提出できない。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。

	A	B	C	D
②音楽表現の創意工夫 (課題・レポート内容)	音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように演奏するかについて表現意図を十分に練っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。	音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持っているが不十分である。	音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持つことが難しい。

	A	B	C	D
③音楽表現の技能 (実技試験)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。

	A	B	C	D
④鑑賞の能力 (課題・レポート内容)	作品や音楽文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や音楽文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や音楽文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分なところがある。	内容が不十分である。

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	美術Ⅱ	2	2年・総合探究コース(選択)	奥村
教科書	美術2 光村図書	副教材		

1. 学習の目標

美術の幅広い諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習・復習は必要ありませんが、考えたことを表現する努力をしてください。考えたように表現できない場合は積極的に担当に助言を求めてください。また、美術系への進学を希望している人は、できるだけ早めに相談に来てください。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①美術への関心・意欲・態度 美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、課題・ワークシート等の提出状況
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、自然、自己、社会などを深く見つめ主題を生成し、創造的な表現の構想を練っているかを評価します。	アイデアスケッチ、課題作品の内容や、そのワークシート内容(考察)
③創造的な技能 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表しているかを評価します。	課題作品の技術的な技能の習得状況と応用状況
④鑑賞の能力 美術作品などの表現の工夫や心豊かな生き方の創造に関する美術の働き、美術文化などの理解を深め、そのよさや美しさを多様な視点から創造的に味わっているかを評価します。	ワークシート内容や発表など

4. 担当者からのメッセージ

様々な美術に関する展覧会などに足を運んで、表現にもいろいろあることを知ったり、日常生活のなかにあるデザインされたものについて考察したり、自分はどのような表現をしたいと考えるなど、美術やデザインに興味・関心を持って授業に取り組んでください。

年間学習計画(美術Ⅱ)

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動(観点)	自己評価
1	・オリエンテーション・鑑賞	□モノトーン表現の表現手法を理解し、その色の美しさやよさを理解し、作品の考察をしている。	ワークシート	【 】
	・版画(凹版)	□フォトモンタージュ、スケッチ、資料をもとに版下絵を作成し、不思議な世界を創造している。 □凹版の技法や表現の特徴を理解し制作している。 □材料用具の使用の仕方を理解している。	課題作品(アイデアスケッチ含) 表現	【 】
	・鑑賞会	□他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート	【 】
2	・デザイン(キャラクターデザイン・創作絵本)	□絵本の主人公になる魅力的なキャラクターを創造している。 □オリジナルまたは既存のストーリーを用いて、読者の年齢を想定したものになっている。 □表現材料や方法を自ら選択し、表現方法を工夫して絵本を制作している。	課題作品(アイデアスケッチ含) 課題作品 表現	【 】 【 】
	・絵画(スケッチ)	□校内スケッチを行い、普段何気なく見ているものの中から美しさを見いだしている。	課題作品 環境	【 】
	・鑑賞会	□他の生徒の作品を鑑賞し、その表現の良さや技法の工夫等を感じ取り、作品批評している。	ワークシート	【 】
3	・彫刻(金属によるレリーフ)	□写実的具象表現から単純化や図案化等の様式化を行い、構成表現へと発展させている。 □平面デザインからレリーフ(半立体)作品への具現化を行っている。	課題作品 表現	【 】
	・鑑賞・1年間のまとめ	□1年間を思い返し、自分の感覚に合った表現方法や作家作品について考えをまとめ、発表している。	ワークシート(発表)	【 】

芸術(美術ⅡⅢ)ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度(レポート提出)	全ての内容が的確に記載されている。期限内に提出されている。	全ての内容が記載されている。期限内に提出されている。	所々空白部分が見られる。期限内に提出できず。	内容が不十分である。期限内に提出できず。
(受講態度等)	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に概ね取り組んでいる。	表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができない。
②発想や構想の能力(アイデアスケッチ・作品レポート内容)	課題の内容をよく理解し、発想や構想を明確に表現するための構想を練っている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現するための構想を考えている。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい部分がある。	課題の内容を理解し、発想や構想を表現することが難しい。
③創造的な技能(課題作品)	必要な技能を習得し、意図に応じて表現方法を工夫して表している。	必要な技能を習得し、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得に不十分なところがあるが、表現方法を工夫して表している。	必要な技能の習得が不十分で、表現することができない。
④鑑賞の能力(レポート・発表内容)	作品や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを味わい、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や美術文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができる。	作品や美術文化などを知り、自分の意見や感想を表現することができるが、内容に不十分などがある。	内容が不十分である。

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
芸術	工芸Ⅱ	2	2年・総合探究コース（選択）	山脇
教科書	『工芸Ⅱ』（日本文教出版）	副教材	『美術資料』（秀学社）	

1. 学習の目標

自己の生活を振り返り、自らの思いや夢などから創造的で心豊かな発想をすることができる。社会的な視点から生活環境を観察して、課題意識を持って構想し、作品表現できる。制作の意図に基づいて、表現方法や素材・技術がどのように活かされたかなどについて考えられる。

2. 確かな学力をつけるための学習法（予習・復習・考查対策等について）

工芸Ⅰでの学習を基礎にして、自らが課題を見つけ解決する能力を高めるには、既成の価値観や概念によらない多様な視点から自身の生活を振り返ることが大切です。また思い通りの構想を実現するためには、材料に関する理解と経験を深め、何事にも根気強く取り組み、諦めない気持ちを持つことが必要です。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり（定期考查までを学習のひとまとまり）ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 題材の内容に関心を持ち、主体的に発想して制作の構想を練ったり、制作方法を理解し、すすんで創意工夫して制作している。	制作（受講）態度、課題・レポート・アイデアスケッチ等の提出 授業への出席状況等
②発想や構想の能力 感性や想像力を働かせて、社会的な視点に立って生活環境などを考え、使用する人や場などに求められる機能と美しさを考えて制作の構想を練っているかどうかを評価します。	アイデアスケッチ・実物大の下図・平面表現等
③創造的な技能 課題の制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作しているかどうかを評価します。	作品表現等
④鑑賞の能力 作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫を感じ取り、制作過程における工夫や素材の活かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めているかを評価します。	ワークシート、レポートの内容等

4. 担当者からのメッセージ

工芸Ⅱは、発想・構想の面からも表現の技能の面からも、より発展した内容になっています。頑張った分だけ自分に身についた能力を実感できると思います。やらされている感でつまらない時間と労力を費やすのではなく、考えたことを作品として形にしたいという積極的な態度で臨んでください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい（ポイント）	学習活動	自己評価
1	○オリエンテーション ・場をつくる ・人を思うかたち ・自然に学ぶ	□バリアフリーやユニバーサルデザインといった社会に深く関わる創作活動に関心を持つ。 □バイオミミクリーなど自然の叡智に学ぶ姿勢の重要性が認識できる。	・アイデアスケッチまたはワークシート等 	【 】
	○住宅の設計と模型の制作 ・「住」 ・設計図の作成	□設計図や模型の制作を通して空間の認識力を高める。 □自分の理想とするような住宅について楽しんで構想をする。 □住空間を考えるにあたってテーマを設け、最低限必要な所要室以外に付加的な何かを盛り込む。 □間取図・屋根形状図・立面図によって簡潔に表現する。 □基本的な建築記号を用いて美しい設計図を描くことができる。	・家の間取りを考える ・構想図の提出 間取図 屋根形状図 立面図 （外観透視図）等 ・設計図の提出 	【 】 【 】 【 】
	・模型制作 (・プレゼンテーション)	□設計した住宅の模型を制作する。 □設計図に合わせてスチレンボードを切る・接着するなどの作業が丁寧にできる。 □設定したテーマや個性的な発想に関して表現の工夫ができる。 □制作意図を伝えるための原稿を作成し、発表する。	・パーツの切断 ・組み立て ・接着  ・住宅模型の提出 ・（プレゼン原稿） ・感想文等	【 】 【 】 【 】
2	○カムのおもちゃ ・鑑賞会	□生活に潤いや喜びを与え、子どもたちの知的な発育も促す「遊び」について見識を深め、玩具をつくる。 □カムの機構を理解して、意図に応じた動きを検討したり、制作の手順や技法などを吟味することができる。 □粘土の成形や木箱の着色など玩具としての装飾効果を考えて、工夫する。 □カムの組み立てとパーツの接着を行って作品を完成させる。 □完成した作品を20秒程度の動画として撮影して提出する。 □制作者の意図や工夫、作品のよさ、おもしろさや美しさを感じ取る。	・アイデアスケッチ提出 ・カムの制作 ・木箱の加工 等 ・粘土成形 ・パーツの着色 等 ・作品の提出  ・動画撮影 ・鑑賞ワークシート	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
3	○ステンシル版画技法で制作するエコバッグ（型紙による染色） ・伊勢型を学ぶ ・型紙の作成 ・染色（型染め） ・鑑賞会	□さまざまな形によるデザインを組み合わせ美しい模様を持った型紙を制作する。 □伊勢型を通して日本の伝統文化や外国の文化を知り、理解を深める。 □形の配置を効果的に組み合わせプリント出来ている。 □色彩・ぼかし等に配慮したステンシル技法の染色が丁寧にできる。 □用途と美しさを追求した独自のデザインを実現している。 □個性を認め合い、それぞれの作品のよさを味わうことができる。	・アイデアスケッチ①形の発想 ・アイデアスケッチ②組み合わせの構想  ・型紙の提出  ・エコバッグ作品の提出 ・鑑賞会ワークシート等	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】

芸術（工芸Ⅱ）ルーブリック

	A	B	C	D
①関心・意欲・態度	課題について強く関心を持ち、主体的に計画的に課題を進めていくことができる。提出物は工夫して丁寧に仕上げ、締切日に提出できる。	課題に関心を持ち、計画通りに進めていくことができる。提出物は締切日に提出できる。	課題に向かう意欲が少し不足している。提出物は締切日に提出したが、完成度が低く丁寧さに欠ける。	課題に取り組もうとする意欲が感じられず、締切日を過ぎても作品が提出されない。

	A	B	C	D
②発想や構想の能力	課題の内容を深く理解し、素材に応じて工夫しながら独自の表現ができる。	課題の内容を理解し、作品として表現可能な発想・構想ができる。	課題の内容を理解しているが、表現可能な発想力や構想力に不十分なところがある。	課題の内容を理解できておらず、作品として表現可能な発想・構想ができない。

	A	B	C	D
③創造的な技能	材料や工具の使用についての知識や技術を習得し、表現しようとする作品について高いレベルで実現できる。	材料や工具使用についての知識や技術を習得し、作品表現できる。	材料や工具使用についての知識や技術の習得が少し不十分であり、作品の完成度も不足している。	材料や工具使用についての知識や技術の習得ができていない。課題に応じた作品が表現できない。

④鑑賞の能力	作品の良いと思われる点について多角的に鑑賞でき、豊富な言葉を用いて独自の考えがまとめられる。	作品の良いと思われる点について鑑賞でき、考えがまとめられる。	作品の鑑賞に際して感じたことや考えをまとめ表現するのに不十分な点がある。	作品の良さを味わうことができず、感じたことや自分なりの考えも表現できない。

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語Ⅱ	3	2年総合探求コース	脇田・谷本・ 西川・西村
教科書	Revised LANDMARK English CommunicationⅡ (啓林館)	副教材	Listening Platform(いっずな書店)/10分間速読トレーニング(桐原書店)/Listening Laboratory Basic β(数研出版)/ 英単語Bricks<継続使用>/英文法・語法Engage(いっずな)	

1. 学習の目標

- ①英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図れるようにする。
- ②英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。
- ③英語の検定試験に挑戦し、自分の英語力を客観的に知り、レベルアップにつなげる。
- ④英文を読んで内容の概要や要点を的確に理解し、その内容を英語で伝える。さらに自身の考えを英語で表すことができるようにする。また、語彙力を高める。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習では、まず英文を読んで概略をつかむ。その後、知らない語を辞書で調べながら英文を読み、自分の力で内容を理解する。この段階では、「予習でどこが分からなかったのか」を確認することが重要である。次に本文をノートに写し重要な構文や文法事項が含まれる英文については日本語に訳してみる。

授業では、予習で理解した部分が正しかったかを確認し、予習で分からなかった部分を重点的に理解する。丁寧にノートにまとめることも大切である。

復習では、内容を再確認しながら、不明な点が残っていないかをチェックする。音声CDを聞きながら何度も音読をする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況 ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

上記2の項目を、継続して実施しなさい。そうすれば、必ず学力が伸びていきます。また、英語をコミュニケーションの道具にして、外国の人や文化に触れることもできます。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、 社会性の高い分野の文章 や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をするることができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画 [コミュニケーション英語Ⅱ]

		LANDMARK	Listening Platform	10分間の速読トレーニング	英単語Bricks	英文法語法Engage	自己評価
1学期	中間	L.1-2	Round1-1 ～Round1-4	小テスト形式で活用	昨年の継続 小テスト形式で活用	自宅学習を中心に、 小テスト形式で活用	
	期末	L.3-4	Round1-5 ～Round1-8				
2学期	中間	L.5-6	Round1-9～Round2-2				
	期末	L.7-8	Round2-3～Round2-6				
3学期	学年末	L.9-10	Round2-7～Round2-10				

※上記計画はあくまで目安

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	コミュニケーション英語Ⅱ	4	2年英語・環境	ウツワース・東・脇田
教科書	MAINSTREAM English Communication Ⅱ Second Edition (増進堂)	副教材	10分間英語速読トレーニング(桐原書店) Engag(いいずな書店) LEAP(数研出版) Listening Laboratory Basic β(数研出版)	

1. 学習の目標

- ①英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解する能力を伸ばすと共に、この能力を活用して積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。
 ②読解、文法、構文、単語の知識を深め、大学入試に対応する力を伸ばす。
 ③英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、適切に意図を伝える能力を伸ばす。
 ④GTECに挑戦し、意図を英語で伝えることも含めて、レベルアップにつなげる。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

長文読解は必ず予習(模試・入試を想定し、まず辞書を使わないで読み通す。意味がわからなかった単語・熟語の意味を前後の関係から推測する。辞書を使用し、意味を確認し、ノートに書く)してくること。
 授業はその確認と音読などの活動の場とし、学習内容と活動の復習を必ずその日に行い、単語・熟語は意味がわかり使える、書けるようになることを目指しましょう。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況(理由なき遅刻・欠席×。取り組み状況も重視) 各課題の提出状況 授業出欠点と授業評価点
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ライティング課題等 授業出欠点と授業評価点
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等 授業出欠点と授業評価点
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等 授業出欠点と授業評価点

4. 担当者からのメッセージ

外国語を学ぶことは、異なる言語を話す人々の文化や背景等を理解する助けになります。遠大な課題ですが、身近なところや最終的には世界の中で、他者とうまくやっていくためにも、まずは英語を頑張ってみましょう。同時に、入試を突破できる力もつけられるよう、日々努力しましょう。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表现と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画〔科目名〕

		MAINSTREAM	Listening Laboratory	10分速読	単語帳		
1学期	中間	Lesson1～2	担当者から後日指示します。	担当者から後日指示します。	担当者から後日指示します。		
	期末	Lesson3～4					
2学期	中間	Lesson5～6					
	期末	Lesson7～8					
3学期	期末	Lesson9～10					

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語表現Ⅱ	2	2年総合探求	松浦・西川・西村
教科書	Vision Quest English Expression II Hope	副教材	英語の構文 80 英文法・語法 Engage Vision Quest English Expression II Workbook	

1. 学習の目標

- ①文法・語法・構文の理解と定着
- ②多様な場面や目的に応じて英語で書いて伝達する能力の養成
- ③英語を書くことに主体的に取り組むことを通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

一年次の英語表現Ⅰで使用した「Vision Quest English Expression I Hope」の上位版の「Vision Quest English expression II Hope」を中心に授業を行う。教科書や参考書をよく読み、予習として問題をノートに解いてくること。授業では説明を聞いて答え合わせをし、間違った点を中心にその日のうちに家で復習をすること。Vision Questの教科書はLesson毎に、Engageは週一回小テストを行う。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) 課題の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト等 ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

文法を学び、理解し、定着させることは英語で自分の表現したいことを伝えるための第一歩です。日本語と同様に自分の思いを英語で伝える楽しさを学びましょう。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をするることができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画〔英語表現Ⅱ〕

		Vision Quest	英語構文80	英文法・語法 Engage	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間	教科書Lesson 1～3	1～3	section 1-25			
	期末	教科書Lesson 4～6	4～6	section 26-50			
2学期	中間	教科書Lesson 7～8 P2 L1	7～9	section 51-75			
	期末	教科書Part2 L2～L5	10～12	section 76-100			
3学期	期末	教科書Part3 L1～L3	13～15	section 101-123			

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語表現Ⅱ	2	2年英語人文・環境理数	中西
教科書	Vision Quest English Expression II Hope (KEIRINNKAN)	副教材	Vision Quest English Expression NEW WORKBOOK 英語の構文80 (美誠社) Engae(いっずな書店)	

1. 学習の目標

- ①文法・語法・構文の理解と定着
- ②多様な場面や目的に応じて英語で書いて伝達する能力の養成
- ③英語を書くことに主体的に取り組むことを通じて積極的にコミュニケーションを図る態度を育成する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

「Vision Quest」を中心に英作文の授業を行う。また、「英語の構文80」を使って英文法の理解と定着を目指す。予習として問題をノートに解いてくること。授業では説明を聞いて答え合わせをし、間違った点を中心にその日のうちに家で復習をすること。毎時間「英語の構文80」を使って構文の暗記テストも行う。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークブック等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト等 ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

文法を学び、理解し、定着させることは英語で自分の表現したいことを伝えるための第一歩です。日本語と同様に自分の思いを英語で伝える楽しさを学びましょう。

	A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しない母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検	3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)	～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)

		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話を行うことができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年 間 授 業 計 画 [英語表現Ⅱ]

		テキスト1	テキスト2	英文法・語法 Engage		自己評価
1学期	中間	教科書Lesson 1～3	1章～3	section 1-25		
	期末	教科書Lesson 4～6	4章～6章	section 26-50		
2学期	中間	教科書Lesson 7～8 P2 L1	7章～9章	section 51-75		
	期末	教科書Part2 L2～L5	10章～12章	section 76-100		
3学期	期末	教科書Part3 L1～L3	13章～16章	section 101-123		

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	アクティブ・イングリッシュ	2	2年英語人文コース 選択	並木
教科書	skillful Listening & Speaking	副教材		

1. 学習の目標

- ①全員英検準2級以上に合格することを目指す。
- ②GTECに積極的に取り組み、四技能のレベルアップを目指す。
- ③日常生活の身近な話題について基礎的な英会話ができることを目指す。
- ④スピーキングにおいては、できるだけ正しい発音ができるよう、ルールを学び、訓練する。
- ⑤聞き手を意識しながら、英語で分かりやすい発表ができるよう、手法を理解し、実践する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習復習を欠かさず行うこと。
 授業以外に英語に触れる時間を確保すること。
 シャドーイングやオーバーラッピングなどのトレーニングを続けること。
 知らない表現や、知識などは必ず自分で調べるという姿勢を持つこと。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 小テスト、スピーキングテスト、プレゼンテーション ディスカッション、ディベート、ライティング課題等
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	小テスト、レポート、プレゼンテーション内容等

4. 担当者からのメッセージ

英語の中でもアクティブ・イングリッシュは特に実技科目です。四技能を含む活動の他、プレゼンテーションや実際の交流等(オンラインを含む)の活動を通してコミュニケーション能力を高めます。普段は日本語のみで生活している環境では、かなり意識して英語に触れる時間を確保しトレーニングしないと「使える英語」の力は身に付きません。愚直にトレーニングを続ければ必ず聞いたりしゃべったりする力は伸びます。頑張ってください。

		A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠		具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検		3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)		～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)
		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。 短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。 物語文をどんどん読める。 評論文の論旨の展開が理解できる。 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。 自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。 英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や質問を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。 また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。 必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。 自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い文または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。 既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日・ち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び自分の簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。 身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画〔科目名〕

		Reading & Speaking	テキスト2	テキスト3	テキスト4	テキスト5	自己評価
1学期	中間 期末	1,2,3,4					
2学期	中間 期末	5,6,7,8					
3学期	中間 期末	9,10					

令和4年度北校シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	英語特講	2	2年英語人文コース	ウツワース
教科書	1分間英語で京都を案内する(KADOKAWA)	副教材	英語4技能型テストへのアプローチ1(数研)	

1. 学習の目標

英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。具体的には、まとまりのある文章を読んだり聞いたりして、それをもとに自分の考えを英語で表現する力を育成する。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

予習: 語彙をチェックし、意味を確認しておく。必要な場合は、事前に英文を読んでおく。
 復習: 特にライティング・スピーキング面において、語彙を定着させ、学習した英文を暗唱できるレベルまで何度も音読(シャドウイング・オーバーラッピング等)し、その英文をスムーズに暗唱できるようにする。そのうえで、その英文をもとに自分の考えが伝えられるようにする。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 定期考査、小テスト、スピーキングテスト
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 定期考査、小テスト、リスニング・リーディングテスト等
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	定期考査、小テスト、レポート内容等

4. 担当者からのメッセージ

「英語を知識として正確に覚え、知っている」という状態から「英語を使える」という状態に変えていきましょう。そのためには今まで以上に表現する(書く、話す)ことを大切にしていきましょう。授業で取り組んだだけでは英語の力は伸びません。授業以外にどれだけ英語に触れるか、自宅で何度トレーニングを繰り返すかがカギになります。正しい方法で取り組めば必ず力は伸びます。頑張ってください。

年間学習計画

		A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠		具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合い、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に应付することができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者となり取りがでるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検		3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能(1280点)		～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)
		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使えるようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話をするることができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画[科目名]

		1分間で京都を案内	4技能型テスト				自己評価
1学期	中間	京都の基本	L 1・2				
	期末	京都の味	L 3・4				
2学期	中間	京都の観光スポット	L 5・6				
	期末	京都の行事	L 7				
3学期	中間						
	期末	1年間のまとめ	1年間の総復習				

令和2年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
英語	北稜探求	1	2年英語人文コース 選択	松井
教科書		副教材	英検総合トレーニング準2級 旺文社	

1. 学習の目標

- ・生徒自身が学習活動を通して自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決できるようになる。
- ・自分の意見を英語や日本語でエッセイライティング及びプレゼンテーションをすることで表現する意欲と技術を身に着ける。かつ他者の意見を理解しようとする姿勢を身に着ける。
- ・英検のライティング、特に準2級のレベルを目指す。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

定期考査は実施しない。
毎週1時間の授業の中で課題に取り組むことが求められる。グループで作り上げ行く活動も多い。積極的に発言することと相手の意見をしっかり聞くことが大切である。欠席してしまうと課題ができない分、成績評価に大きく影響する。授業以外では新聞を読んだりニュースを聞いたりして社会に対する関心を広げていくことと新書を読んだり情報を収集したりして知識を深めていくことが求められる。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとめ(定期考査までを学習のひとまとめ)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	授業への出席状況、受講態度(英語を用いようとする積極性) ワークシート等の提出状況
②英語表現の能力 外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	話す・書く能力 エッセイライティングの課題、プレゼンテーション
③英語理解の能力 外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	聞く・読む能力 クラスメートのエッセイやプレゼンテーションに対して、よく理解し、共感できているか。
④言語や文化についての知識・理解 外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	エッセイライティングやプレゼンテーション内容等

4. 担当者からのメッセージ

自分自身のこと、北稜高校のこと、地域のこと、世界のことなど自分の考えや意見を表現してたくさん表現してほしいと思っています。楽しみながら取り組んでいきましょう。

		A1	A2	A2～B1	B1	B1～B2	B2
CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) ヨーロッパ言語共通参照枠		具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常の表現と言ひ回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物など個人的情報について、質問したり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して助け舟を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単な日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。		仕事、学校、娯楽、で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈略のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。		自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
英検		3・4級	準2級		2級		準1級
GTEC4技能 (1280点)		～689 (grade 2)	690～959 (grade 3/4)		960～1189 (grade 4/5/6)		1190～1280 (grade 6/7)
		1	2	3	4	5	6
		簡単な定型表現を使うようにしよう	もう少し幅広い英語を使って表現してみよう	簡単な日常のコミュニケーションが取れることを目標にしよう	日常のコミュニケーションが取れるようにしよう	授業以外でも英語を使ってみよう	日本を英語で発信しよう
理解	Reading	身近な名詞・動詞・形容詞が分かる。短い文が理解できる。	文の主語・動詞を理解し、基本的な語句・表現を多く含む英文が読める。	様々な話題について書かれた少し難易度の高い英文を、辞書を使いながら読める。	複文構造を理解し、前から読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の英文を読むことができる。	文学作品が読める。自分の興味のある分野の専門用語を含む文が読める。英字新聞や英語サイトを辞書があれば読める。	辞書を使って、社会性の高い分野の文章や専門的な論文が読める。
	Listening	授業で何度も使う表現や語句を聞き取ることができる。	ゆっくり話されれば、必要な情報を聞き取ることができる。	学習したテーマに関する質問を聞いてわかる。また、そのテーマに関する文の内容を聞いて理解することができる。	学習したテーマに関する短い簡単なニュースやメッセージがゆっくりはつきり読まれたとき、メインポイントを聞き取ることができる。必要な情報は、ほぼ聞き取ることができる。	指示にスムーズに対応し、説明や批評なども概ね理解することができる。	指示に素早く正確に対応し、説明や批評も理解し、正確に内容を把握することができる。自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、内容や話者の意図を理解できる。
表現	Writing	自分について基本的な情報(名前・住所・家族など)を、辞書を使えば短い句または文で書くことができる。	学習したテーマについて、文法的な間違いを含みつつも、簡単な短文を書くことができる。既習の語を使って短文を書くことができる。	学習したテーマ及び自分の興味あることについて、簡単な感想や意見を書くことができる。	興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、意見や感想を書くことができる。	幅広い分野に関して、理由や説明文を加え、パラグラフ構成が整ったある程度の長さの文章を書くことができる。	しっかりした論理構成で、アカデミックな題材の小論文や報告を書くことができる。
	Speaking	学習したテーマについて、なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所・個人的なトピック(家族や学校生活)について質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマについて、基本的な語や言い回しを使って、必要なことを質問したり、質問に答えたりすることができる。	学習したテーマ及び自分の興味のあることや生活圏内の事柄(趣味・家族・出来事など)について簡単な意見交換ができる。	学習したテーマ及び短い簡単なニュースを、辞書の力を借りながら伝達することができる。	幅広い分野に関して、自分の考えを述べながら、相手と簡単な意見交換ができる。	英語のネイティブスピーカーに対してごく自然かつ自発的に会話することができる。身近な場面で、ある事柄について、自分の意見を説明したり主張したりしながら積極的に会話することができる。

年間授業計画〔科目名〕

						自己評価
1学期	中間	北稜高校について短いエッセイと、プレゼンテーションをグループで行います。				
	期末	JAICA主催のエッセイコンテスト(日本語)及びTOEICエッセイコンテスト(英語)にチャレンジします。				
2学期	中間	自分自身のことを北稜高校で身に着けたことをもとに、エッセイを書き、プレゼンテーションをします。				
	期末	英検のライティングや、英検そのものの学習をします。				
3学期	中間					
	期末	全員で、英語劇に台本作りから取り組みます。				

令和4年度北稜シラバス

教科	科目	単位	学年・コース	担当
家庭	家庭基礎	2	2年全コース	竹中・高橋
教科書	実教出版 新家庭基礎パートナーシップで創る未来	副教材		

1. 学習の目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、食生活、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、生活課題を主体的に解決するとともに、生活の向上を図る力を身につける。

2. 確かな学力をつけるための学習法(予習・復習・考査対策等について)

家庭基礎の学習は、日常の生活や人との関わりの中にあります。「授業を受ける中で、自分自身の生活や人との関わりと照らし合わせて思考し、想像する。」「専門用語の意味もできるだけそこで理解する。」興味があるかどうかは別として、授業の内容は身近なことが大半です。まず、授業中にしっかり思考し、想像してください。そうすれば、考査前に復習するとすんなり頭に入ってきます。

3. 評価

次の各観点に基づき学習内容のまとまり(定期考査までを学習のひとまとまり)ごとに基準に従って評価を行い、それらを総括して学年末に5段階の評定をします。

観点	評価のポイント
①関心・意欲・態度 各教科目が対象としている学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価します。	授業への出席状況、受講態度、ノート、課題、レポート等
②思考・判断 各教科目の知識・技能を活用して課題解決するために必要となる思考力・判断力・表現力等を身に付けているかを評価します。	定期考査、レポートの内容
③技能・表現 各教科目において習得すべき技能を身に付けているかを評価します。	実験・実習の技能・表現
④知識・理解 各教科目において習得すべき知識や重要な概念等を理解し、身に付けているかを評価します。	定期考査、レポートの内容

4. 担当者からのメッセージ

家庭基礎の学習内容は、生きていく中で身近なことばかりです。衣食住や人間関係など、自分を取り巻く環境に興味を持ってください。

年間学習計画

学期	学習内容	学習のねらい(ポイント)	学習活動	自己評価
1	第1章 食生活を作る ・栄養と食品のかかわり ・食事の計画と調理 ・食品の選び方と安全	□栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品について基礎的な知識を習得している。 □栄養・食品の知識を基に、食事摂取基準、食品群別摂取量などを用いて、バランスのとれた食事計画ができる。 □食品衛生(主に食中毒)について学び、消費者として知っておくべき知識を身につけている。	ノート提出 課題提出 実験・実習 期末試験	【 】 【 】 【 】
2	第2章 子どもとかかわる ・子どもを知る ・発達のすばらしさ ・子どもの生活 ・親になることを考えよう	□保育を学ぶ意義について理解している。 □子どもの心身の発達と特徴について理解している。 □子どもの食や遊びについて理解しそれらの知識に基づいた子どものおやつ作りなどができる □子どもの人間形成には、保育者との関わり、周りの人との関わりが重要であることが理解できる。	課題提出 実習 ノート提出	【 】
	第3章 自分らしい生き方と家族 ・共に生きる家族 ・家族に関する法律	□現代の家族にかかわる課題について、社会的な事象を考えながら理解できる。 □憲法・民法のとりわけ家族に関する条文について理解している。また、民法改正の動きについても理解できる。	課題提出	【 】 【 】
	第4章 高齢者と関わる ・高齢者を知る ・豊かな高齢期を迎えるしくみ	□高齢者の心身の特徴や生活について理解し、積極的に高齢者とその生活を知らうとする。 □介護保険制度のしくみやサービスの内容と課題について理解できる	NIE学習 期末考査	【 】
3	第4章 衣生活をつくる ・衣生活の管理	□計画的な衣生活を送るために、衣服の購入・選択、洗濯・保管、廃棄までの流れを理解する。	実験・実習	【 】
	第5章 消費行動を考える ・消費行動と意思決定 ・社会の変化と消費生活	□自分たちが消費者であることを理解し、消費行動についてはその都度意思決定が行われて入ることが理解できる。 □契約、多様な販売方法や支払い方法、問題商法について理解できる。被害に遭った場合の解決方法についても理解する。 □資源・環境を考えた献立を調理することが出来る	課題提出 実習 学年末考査	【 】 【 】 【 】

年間学習計画

学期	学習項目・内容の要点	到達目標	学習活動	自己評価
1	第1章 細胞と分子 1. 生体の構成—個体・細胞・分子 生物のからだの構造と階層性, 細胞を構成する物質	☐ 細胞を構成する物質の種類と含有率、はたらきが理解できている。 ☐ タンパク質について基本的な構造と酵素のはたらき、特性を理解している。 ☐ 細胞小器官など, 細胞の内部構造とそのはたらきについて説明できる。 ☐ 生体膜、細胞骨格についてその構造や機能を理解できている。 ☐ 細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解している。	課題発表 レポート・課題提出 小テスト 実験・実習 実技テスト 作品課題・・・ 中間考査 期末考査	【 】 【 】 【 】 【 】 【 】 【 】
2		※自己評価 A: 完璧! B: ほぼ理解 C: 教科書の太字程度は理解 D: よく理解できていない		
3				

※1ページに収めることにはこだわりません。

家庭科ルーブリック

	A	B	C	D
ノート提出	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせてそれ以外の授業メモも取れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容も不十分である。

	A	B	C	D
レポート	期限内に提出。全ての内容が的確に記録されている。あわせて考察の内容が優れている。	期限内に提出。全ての内容が記録されている。	期限内には提出。所々空白部分が見られる。	期限内に提出できず。内容も不十分である。